

Science Alumni Association, University of Toyama

# The Basis

Mathematics

Physics

Chemistry

Biology

Earth Sciences

Environmental Biology  
and Chemistry

富山大学 理学部

同窓会報

Vol.26

Science Alumni Association, University of Toyama

# The Basis

富山大学理学部 同窓会報

Vol. 26

数学科 Mathematics

物理学科 Physics

化学科 Chemistry

生物学科 Biology

地球科学科 Earth Sciences

生物圏環境科学科 Environmental Biology and Chemistry

## 『同窓会連合会』をつくろう！

同窓会長 平田 卓郎



同窓会員のみなさん、ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成17年10月1日に、国立大学法人の旧三大学が再編統合により新・富山大学が発足していることは、同窓生諸賢もご周知のとおりであります。地域有数の大規模大学として誕生しましたことは嬉しい限りです。

人文学部、人間発達科学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、芸術文化学部の各同窓会は、新・富山大学のこの誕生を機会に、同窓会の連帯を強め、大きな総合力を発揮し、母校大学の一層の発展に協力していきたいと存じます。

現在、「富山大学同窓会連合会」を結成するよう準備を進めております。来たる10月6日（土）に設立総会を開催する予定です。ふるってご参加とご協力をお願いいたします。

8月11日（土）に、私たちの同窓会総会、講演会、懇親会には、お誘い合わせのうえ、ぜひご出席いただきたくお待ちしております。

同窓生諸賢には、今後ますますご研鑽を積まれ、ご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



## 同窓会の皆さんへ

理学部長 平井 美朗



富山大学理学部同窓会の皆さんにおかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

富山大学は、法人化されて3年強、そして県内3国立大学が統合されて2年弱が経ちました。この間、富山大学の理系学部では、教育と研究の効率化と活性化を図る為に、教員組織と学生組織の分離が行われました。教員組織として、医学薬学研究部と理工学研究部が設置され、我々理学部教員は、全て、理工学研究部所属となりました。一方、学生組織として、各学部はそのまま存続しますが、大学院については改組が行われ、理工学教育部、医学薬学教育部、生命科学融合教育部が設置されました。この生命科学融合教育部では、医薬理工の融合型教育が行われています。

また、教員の身分に関してですが、これまで以上に責任を持って教育研究に当たることが出来るように、助教授は准教授に、助手は助教に名称が変わりました。このことによって、従来の助手の方は、助教として授業が持てることになりました。

理学部に目を転じますと、理学部教員（理工学研究部）と保護者との連携及び学生支援を目的に、理学部後援会が設立され、様々な行事が行われています。その一つに、勉学意欲の向上を目指して優秀学生の表彰制度を設けています。また、マーレイ州立大学との連携に基づき、科学英語研修のための学生派遣を支援しています。

学部が取り組んでいる教育としては、幅広い知識を獲得する機会を増やす為に、学科相互乗り入れ授業の充実を図るべく検討を重ねている所です。また、自学自習の出来るe-learningの推進を進めています。さらに、インターンシップ派遣についても、専任の教員を配置し、積極的に取り組んでおります。研究については、幾人もの先生の研究成果が新聞で報道されました。

大学を取り巻く状況ですが、ご存知のように、国立大学は、毎年1%の効率化係数による運営交付金の削減と教職員の削減が義務付けられ、大変厳しい状況におかれています。また、教員の業績評価と評価結果の昇給への反映が求められています。さらに最近、経済財政諮問会議や教育再生会議で高等教育に関する様々な改革案が取り上げられており、大学の運営交付金（研究費等）の大幅な傾斜配分や大胆な再編統合などが議論されています。

今後、富山大学が存続していくためには、地域社会との連携とともに、同窓生の皆さんとの連携も欠かせません。理学部としては、皆さんの要望を聞きながら、地方の知の核としての機能を最大限活かして皆さんを支援できれば、と考えています。同窓生の方々も、本理学部へのご支援の程、宜しくお願い致します。

なお現在、広報委員会情報部会が中心になって理学部のホームページの改善を行なってきましたが、今年度はさらなる充実を図っていきたいと考えています。

## 1996年の遼寧大学

大学院理工学研究部 平山 実



1996年9月から10月にかけての37日間を大学間交換研究員として遼寧大学で過ごした。95年に太原市の山西大学を訪れていたのも、私にとっては2度目の中国滞在となる。それ以前に遼寧大学の辛先生（辛宗政教授）が交換研究員として2度富山大学を訪れて量子光学についての共同研究をしたことがあり、この度も自分の研究の他にその方面の勉強が出来るかも知れないと思っていた。

20時頃に大連に到着した。空港には辛先生が迎えに来てくれていて、その夜は遼寧師範大学の国際交流センターに泊まった。どこかの学生と相部屋であったが、夜も遅かったので話もしないで寝てしまった。

翌朝は朝食抜きで6時30分の列車に大慌てで乗った。瀋陽まで4時間半ノンストップで走る特別快速列車の車窓から見る景色は果てしなく広く、沿線にはトウモロコシが切れ目なく植わっていた。車中では筆談を交えながら遼寧大学に関するいろいろな事を教わった。

物理学科の入学生は、93年は0人、94年は13人、95年

は15人、96年は20人だとのこと。辛先生が私に与えた瀋陽滞在についての注意は1に保証健康、2に参観旅遊、3に研究というものであった。

宿舎は五州園という名前の大学のゲストハウス。食事は留学生食堂で摂るようとのこと。また、物理系の建物ではなく宿舎で勉強するのがよいとのこと。どの先生も勉強は自宅ですようだった。五州園の部屋の調度品は一見するとなかなか豪華である。しかし、整備不足のところもあって、風呂の栓や電気スタンドなどは工夫しないと良く働かなかった。不思議な電気スタンドで、叩くと消え、もう一度叩くと点き、両手でつつんでやると明るさを増す。

五州園には私を含めて3人の日本人が泊まっていた。他の2人は大学の客というより語学研修が主目的のようである。

到着の翌日は“教師の日”で、大学に滞在している外国人教師達のパーティがあった。日本人も数人いて、五州園に隣接する教師用宿舎で暮らしながら日本語を教えている由。他にロシア人、イギリス人の語学教師も沢山いた。

大学職員の住宅も学生寮も大学の構内にある。学生達は朝早くから体操のために運動場に集まる。他方では年配の人たちが魯迅の大きな銅像の前で太極拳の早朝練習を行う。9月入学の新入生たちは一日中軍事教練をやっている。

そして、夕方には洗面器を持ってゾロゾロと構内にある浴場にでかける。軍事教練はその後9月の末の運動会の日まで続き、運動会の閉会式で空に浮かぶ風船に向けて銃を発砲して終わりとなった。9月18日の夜には学生寮の前は大騒ぎだった。学生達が65年前の日本軍による9.18事変に抗議して騒いだのだった。

大学の近所のスーパーマーケットではポテトチップスが日本美味薯片と書かれた袋に入って売られている。サッポロの缶ビールが中国産のものの3倍の値段で売られている。ハイネッケンは約4倍の値段。おかしかったのは構内外の路上でかなりしばしば道行く人に何かを訊ねられたことだ。辛先生が言うには『平山先生はしゃべりさえしなければ中国人と区別がつかない』とのことだった。

到着して3日目に辛先生に連れられて物理学教室に行き実験器具や蔵書などを見せてもらった。物理学教室では学生向けと教員向けの2回の講演を行った。1週間目に学長、副学長と会った。富山大学の他に関西大学、九州国際大学、福岡大学とも交換協定を結んでいる由。副学長が同席した

パーティでは何度も乾杯を挑まれた。211工程（21世紀に向けて中国内の100の大学を重点的に整備する計画）に遼寧大学が入れるかどうか大きな話題であった。学長と会った後の数日は終日五州園にこもって勉強し、首尾よく結果を得ることができた。その間、辛先生は昼となく夜となく五州園の部屋に来てくれた。日本への留学を希望する学生も訪ねて来た。

大学の外事処の李さんが『あまり遠くない所なら連れて行ってあげる』というので、山海関を希望した。万里の長城が海に落ちる所である。李さんと一緒に長城に登り、久しぶりにいい汗をかいだ。この旅の帰途に立ち寄った錦州市に三清閣という建物があった。1階には孔子と関羽、2階には釈迦、3階には道教の諸神が祀られていたのには驚いた。

辛先生には大変お世話になった。中国では生水を飲むのは厳禁だから果物で水分を補うようにと言われた。また、折にふれて西瓜、リンゴ、トマトなどを差し入れてくれた。自宅にも招かれた。そこには餃子その他の料理の支度がされていて、餃子の皮を薄くのばす作業は私のために残されていた。日本語も英語も苦手らしい長身の息子が大きな身ぶりで『もっと食べろ、もっと食べろ』と勧めてくれた。

瀋陽滞在予定期間はまたたく間に過ぎてしまい、量子光学の勉強は出来なかった。

10月中旬に瀋陽を離れ、辛先生と一緒に天津の南開大学数学研究所と北京の中国科学院高能研究所を訪れた。数学研究所の2階には数学者陳省身教授の、3階には物理学者楊振寧教授のオフィスがある。共に1年のうち何ヶ月か滞在するのだという。また、私達の宿舎の前にある立派な邸宅は陳教授の住まいだという。

数学研究所の理論物理学部門のセミナーでは、この研究所の葛教授が編集した量子群の本を引用しながら2回話をした。

葛教授は97年に北京で国際会議をやるから是非参加するようにと勧めてくれた。この研究所には台湾や中国各地から来た研究員が滞在しており、瀋陽でのゆったりした生活から競争社会に引き戻されたような気がした。高能研究

所では新しく建設された加速器を見せてもらった。ここではセミナーで話すことはせず、若い研究者と一緒に万里の長城の八達嶺からの2つのコースを登った。

『国際会議を行うから来ないか』という辛先生からの誘いを受けて、2000年にまた遼寧大学を訪れた。私達の分

## 最終講義

# ゲージ場の不思議

平山 実 先生 理工学研究部 理学部物理学教授

●平成19年3月6日(火) ●理学部棟2F 多目的ホール

## 平山実先生の最終講義要旨

理学部 水島俊雄(22物)

### 「本日 頭脳明晰につき 休講」

物理法則全体が従っている原理は何だろうかを主題として講義を行う。ラグランジアンやニュートンの運動方程式などの積分を取ったものを $S$ とすると、その変分 $\delta S$ は0となる運動学法則がある。動力学的法則（力の法則）を決めるのは何か。それはゲージ原理である。4つの力、すなわち強い力、電弱力（電磁力と弱い力）、重力はゲージ原理に従っている。古典力学では荷電粒子が電場、磁場の元に置かれると4元電磁ポテンシャル $A$ と、 $A$ で表した電場が存在し、荷電粒子はローレンツ力を受ける。これを量子力学で考えるとゲージ場変換の元で不変性を持っているシュレーディンガー方程式で表される。より強い要請ではゲージ場原理はゲージ場 $A$ がなければいけない。これを実証した実験としてAharonov-Bohm効果がある。ここで電子は磁場 $B$ を感じるのか、 $A$ を感じるのかが問題となるが、Tonomura (1984)の実験では電子は磁場 $B$ のみを感じるのではなく、 $A$ が実在し、ゲージ場を感じていることが分かった。非可換ゲージについては1954年のYang-Millsの理論がある。これを現代的に言うならば、クォークの力学はカラー自由度を混ぜ合わせる局所的行列 $SU(3)$ 変換の下で不変である。非可換ゲージについては研究室の学生の修士論文から具体例を挙げて説明する。以上の考察から重力と弱電力について得られることを結語でまとめて述べる。

最後に38年間の教員生活の中でやりたかったことは、「本日 頭脳明晰につき 休講」として講義を休講にすることであった。

科会では私を含む数人の発表に加えて辛先生のチームから5つの発表があった。当初は辛先生と私が半分ずつ座長をやるプログラムが組まれていたが、結局3時間余りをずっと座長をやらされた。辛先生は私との共同研究の題材を準備して呉れていた。私の役目は辛先生達が国際会議で発表した研究に関する論文の英文を点検することだった。以前に一緒に書いた論文と同じ方法で別の対象を調べるものだったので、雑誌に掲載されるかどうか危ぶまれた。

ヨーロッパの雑誌に投稿したが、結局掲載されなかった。4年ぶりの遼寧大学は大きく変わっていた。図書館が新築され、辛先生の家も大学から歩いて15分ほどの場所に移っていた。2人で歩いてその家まで行く道すがら辛先生はリヤカーで商う老婆から私のために桃を買ってくれた。



# 印象に残ったことなど

大学院理工学研究部 常川 省三

平成19年3月の退職にあたり、印象深い事柄をまとめてみます。

私は富山県生まれで、小、中、高校と県内で学び、大学も富山大学へ入学し、根っからの富山県人として過ごしてきました。初めて県外で生活したのは、大学を卒業し1964年（昭和39）にアメリカへ留学をした時のことでした。留学中、アメリカの大学院生の生活や勉強の仕方、日本では得られないこと等、いろいろと学ぶことが出来ました。例えば、州にもよりますが、修士の学位をとるには、まずアメリカの政治と歴史は基礎的な知識として試験に合格しなければなりません。また、大抵の学生は奨学金やアルバイトで生活費を稼ぎ、その中から授業料を払い、講義は自分の責任で学びたいものを選択するので、自ずと真剣に取り組んでいました。

研究機器に関して、1964年（昭和39）頃から計算機が使われ始めました。富山大学でも計算機センターが設置され、プログラム作成の研修会がたびたび開かれました。言語はSAPといわれ、計算機へのプログラム入力には紙テープを使い、タイプライターで紙テープに窄孔する方式でした。タイプミスが一つでもあると最初から打ち直しを行わねばならず、いつも清書する時のような緊張しながらの仕事でした。当時、行列式の固有値を求めるために計算時間は丸1日位かかっていたように思います。その後、数値計算にFortran、入力にはパンチ

カード、命令には1行に1枚のカードが使われるようになりました。窄孔用のカードは、1箱に2000枚入っていました。一度、窄孔したカードを持ち運んでいる途中うっかり落として、カードの順番が狂ってし



まい、プログラムが動かなくなりました。元の順番への並べ直しに苦労したことが思い出されます。

次の世代では、ブラウン管の画面上でプログラムの作成や修正が出来、作成したプログラムはハードデスク、またはマグネティックテープに保存出来るように

なりました。計算機の使い道は数値計算が主であり言語もFortranでした。その後1980年代に中央演算装置（CPU）が8ビットのパソコンが市販され、パソコンが数値計算やワープロ用として研究室でも使われ始めました。パソコンの進歩は著しく、16ビット、32ビットへと、また、メモリーの増大やCPUのクロックなど3ヶ月毎に改良版のパソコンが売り出され、現在ではCPUクロックが3GHz以上と初期では想像出来ないような早さになっています。パソコンの使用は数値計算よりもワープロ、表計算、図表、メールなどが主になってきています。また、動画も楽しめ、インターネットによる情報化にも使われており、企業や学校でも必要不可欠となっています。ただ、情報がすばやく手に入るようになった半面、デメリットも存在します。得られる多くの情報をどのように利用するか、どのように整理するのが重要です。使用方法も多岐にわたり、私など年老いた年代の人間には備えている機能のほとんどが使いこなせなくなってきました。まるで猫に小判です。また、一旦パソコンが動かなくなると、すぐに回復が出来なくなり非常に焦ることが度々あります。これらは時代の流れと思って、今後は自分なりに楽しみながら使っ

ていきたいと思っています。

今まで同窓会総会には、なるべく出席して来ました。これからも出席したいと思っています。

同窓会のますますのご発展を祈っております。

## 最終講義

# マイクロ波分光とともに

常川 省三 先生 理工学研究部 理学部物理学科教授

●平成19年3月6日(火) ●理学部棟2F 多目的ホール

### 常川省三先生の最終講義要旨

理学部 水島俊雄(22物)

分光によって何がわかるのかについて挙げるとすると（１）回転スペクトルから分子のエネルギー準位、（２）分子内運動、（３）微細、超微細構造の決定、（４）フリーラデカルの決定の4点が挙げられる。分光に使われるマイクロ波の周波数は当初はセンチ波の30GHzであったが、次第にミリ波30～100GHz、サブミリ波300GHzと周波数領域を拡大してきた。マイクロ波分光の特徴はシャープなスペクトルにより正確な周波数の決定ができることにある。実験に使う装置はほとんど手製である。初めて作った装置はシュタルクセルであった。

主な研究対象の分子を挙げると $\text{CH}_3\text{SCN}$ 、 $\text{CH}_3\text{SCOH}$ 、 $\text{NH}_2\text{OH}$ 、 $\text{N}_2\text{H}_4$ である。これらの分子の内部回転、反転運動のスペクトル測定を通して分子内運動の研究を行なってきた。またこれらの分子は星間分子とも関連しており、電波天文学と深く関わりを持ってきた。ヒドラジン $\text{N}_2\text{H}_4$ は置換反転群の理論を適用し8個の安定位置構造について解析を行なった。研究生活は大好きな電子回路を扱うことができ、また自ら作った装置を研究に使用することができた。周波数帯域も300GHzに拡大しスペクトルが測定できたことは嬉しい。



# 「キイチゴの世界」から

大学院理工学研究部 鳴橋 直弘

講演は、『1. 始めの始めにイチゴについて』から始まり、その歴史を紐解くと、清少納言の「枕草子」に登場する。

第40段「あてなるもの…(中略)…いみじゅうつくしきちごのいちごなど食いたる」と出てきているが、このイチゴはキイチゴである、という。キイチゴの古い呼び名は沖縄では「いちびこ」でそれが「いちご」になった。中国では覆盆子という。以知古と書く場合もある。

イチゴにはオランダイチゴ（ストロベリー）、ヘビイチゴ、キイチゴがあるが、一般にイチゴと言えばオランダイチゴ、即ちストロベリーを指すという。そして苺という漢字の由来についての話があり、中国では「苺」を、台湾では「莓」を使っている。

講演はキイチゴの話に入り、キイチゴ学は英語Batologyと言い、ヨーロッパでは一つの学問になっており、ヨーロッパの文化になっていることが紹介された。キイチゴに関する国際シンポジウムが4年毎に開催され、24年間で計6回出席したが、黒人はいなく、アジアでも日本でも6回出席したのは鳴橋先生一人だけであった。研究者の大部分はヨーロッパ人であった。

キイチゴと言えば集合果のラズベリー（raspberry）と、果床とともに一緒に採れるブラックベリー（blackberry）がある。キイチゴの正式名称はRubusで、日本名では木苺、英名ではBlunbleだが、raspberryとblackberryが一般的。フランス語ではフランボアレー（framboise）、中国では木苺、樹苺、懸鉤子という。

キイチゴとは、バラ科に属する植物で、多数のめしべがあり、外果皮が肥大し、果実は集合果である、という定義があつて、その後のどのように利用されているかという現実的な話があつた。そして、木苺の栽培と収穫について、デンマークやポーランド、ニュージーランドやオーストラリアの現状が紹介され、日本では農業が成り立たないという話まで飛び出した。高い人件費と機械化が遅れていることが原因らしい。

ではキイチゴは何処に生えているかという、主に破壊された向陽地、森の外や縁、希に森林の下にあるらしい。低木から草間であり、茎の大部分は二年生で、葉は多様性があり、子孫を増やすために空間的および時間的戦略を採っている。こんなに変わった植物は珍しいという。その証拠に、世界に300～3,000種のキイチゴがあるという。



18世紀には5種だったものが、1920年に71種となり、1958年に285種となり、細分すると3,000種になるらしい。

この講演で、鳴橋先生が最も主張したかったのは、日本の大学では植物標本庫（ハーバリウムHerbarium Specimen：押し葉標本）が貧困で、日本には45カ所約700万の標本しかないが、米国には629カ所、6,000万の標本が蓄積されていること。スミソニアン博物館やミズー

リー博物館の標本庫の写真が披露されたが、中国が進んでおり、今後は世界の中心になるだろうと予言している。そして、大学に標本があるのは当然のことで、幕末に日本へやってきたシーボルトは植物学者を連れてきて、計3回にわたって日本各地で植物採取をし、ウィーンの博物館にはシーボルトの標本が残されていることが紹介された。

最後に、鳴橋先生がつけた植物の名前が十数種紹介され、Hayata Koizumi Naruhのいきさが紹介された。ちなみにNaruhは鳴橋先生の国際的な登録名で、アルファベットの一文字から始まり、同名のときは順次後ろの文字を追加していくらしい。あの有名なダーウィンはDである。

講演の最後は、『18. 富山は暖かい』で終わった。大阪や兵庫ではキイチゴは育たないが富山では育つという。視聴者からの質問で、「何が35年以上もキイチゴが先生を惹き付けたのか、その魅力とは何か」という質問に対し、第1の理由は、キイチゴは雑草であること。第2の理由は、キイチゴには多様性があり、変化に富んでいること。型にはまっていなくて面白いこと、



があげられた。

そして今後は、ビルマやフィリピンでキイチゴを調査し、あと5年くらい楽しんでから、3,600枚以上の電子標本を世界に公表したい、という。

## 最終講義

# キイチゴ学の世界

鳴橋直弘 先生 大学院理工学研究部教授

●平成19年3月8日(木) ●理学部棟2F 多目的ホール



## 鳴橋直弘先生の最終講義を聞いて

総合情報基盤センター 高井正三(21物)

大阪は河内生まれの鳴橋先生、その最終講義は今までの集大成のお披露目であり、用意されたスライドの写真や図表は約200枚で、講演内容は優に3時間を超える内容と言っているが、これを1時間30分に縮めて（端折って、省きながら）話をしようというのである。なんとその話しぶりは聴衆を引き

付けて離さず、その興味溢れんばかりの話に自然にのめり込んでいくようであった。

会場を埋めた150名ちかくの聴衆は、キイチゴの話から始まった講演と、次々と紹介される数多くの収集写真や図表に魅了されて、世界のキイチゴを狩り堪能して、キイチゴ学の世界を徘徊する楽しさを覚えたようである。それにしても、富山大学にこんなに面白い先生がいたとは、初代名誉教授の植木忠夫先生以来の名講義であった。



# 富山大学38年余の思い出

大学院理工学研究部 増田 恭次郎

東京都立大学生物学科形態学講座は分子遺伝学が主流で植物形態学の分化に関する研究者は増田助手1人であった。その先生の下で植物組織培養での器官分化の研究をしていた。

修士課程2年生の昭和42年の秋、博士課程の入試が終わった後、遺伝学講座の先生が富山大学で植物形態学の助手を探しているよと知らせてくれた。指導教員の増田先生が、私は4月から弘前大学に出てしまうので、都立大には指導者がいなくなるから、チャンスだから就職を考えたらどうかと言われた。その気になって、連絡をして頂いた。

11月銀杏が落ちる頃、小林貞作先生が上京されて、面接された。都立大学小野教授も小林教授も増田先生も皆さん名古屋大学の同僚であったためか、面接の席に皆さん顔をそろえての懇談会であった。昭和43年4月採用と言うことであった。ところが4月になっても来なさいとの呼びがないので博士課程に進学。10月になってポストが付いたから11月から来て欲しいと連絡があった。

——今では考えられないのんびりした採用人事であった。——

昭和43年（1943年）11月採用というのに、11月上旬の日本植物学会熊本大会で講演発表してから辞令を戴きに富山大学文理学部に初めて顔を出し、すぐさま帰郷し、富山の住人になったのは11月10日頃であった。12日朝のニュースで学生による本部封鎖が行なわれたと。経済学部の人事問題から発展したらしいが、本部封鎖で後援会の皆さんの経理が明らかになり、油が注がれてしまった。その後の大学当局の学生対策がまずく、何度も学生ストライキになった。その結果、土曜・日曜返上でも日程が足りず、春休み返上で日程をこなし、何とか卒業させた事など、だ

らだらと紛争を長引かせてしまったのは、一般学生に対しても得る物がなかったように思い、残念であった。

昭和44年6月大雨の翌朝、新富山の近くに下宿していたので、神通川がどんなに増水しているかを見に行った。川幅いっぱいには濁流が流れているのを見て出勤、たまたま昼のニュースを聞こうとラジオを入れたら、神通川の富山大

橋が落ちましたと。大学側から2番目の橋桁が陥没したのであった。特に人用の仮橋ができるまでは神通大橋か、有沢橋を渡らないと駅や繁華街へは行けず、大変不便な思いをした。当時の有沢橋など歩道なしの対面2車線であったが、所々穴が開いているお粗末な橋であった。その後、車の増加と共に両橋とも歩道付きの1本が増設された。

当時生物教室の教員は、細胞学講座：小林、堀、増田、生理学講座：久保、鈴木、形態学講座：小黒、それに教養部の林、河野、計8名であった。学生は、4年生4名、3年生6名、2年生20名（進級できない学生が大勢いた）であった。こんな小さな教室であったので、教室の行事としての野外レクレーションに先生方も多数参加して、和

気藹々の親睦交流があった。大学紛争で学生と先生との関係がとくぐりすぎしがちな時に信頼関係を深める良い機会であったと思う。

私は鳴橋研の学生諸君とも親しく付き合っていた。何処何処へ・・・の花を見に行こう。行きましょう。バーベキューに何処何処へ行きましょう。何何を取りに行きましよう。飲み会をするぞ。などなど。

学生諸君の発案も多くあったし、わたしもよくそれに乗っていた。若さだったのだろうか。ある時、研究室で懇談しているときに「大学出はエリートなんだから洋食の作法くらい知らないで恥ずかしいぞ」、即座に学生が、知り



ませんからそれなら教えてくださいと。細胞研の学生諸君を洋食のマナー講習会に連れて行く羽目になった。今の学生はもうエリートでなくなったのだろうか。特にここ10年くらい前からは、遊びの誘いをしなくなった。学生からの誘いもめっきり少なくなった。誘いに乗ってこなくなった感じがしている。それに、遊ぶよりもっと勉強して欲しいと思う気持ちが邪魔をしている。学生の質、学生気質が変わったのと私が年寄りになった事によるのであろうか。

小林先生の立山緑化復元事業の手伝いで、アルペンルート完成前後でよく立山に入り、高山植物の種子集めをした。営林署の入山許可の腕章を着けて、登山道に関係なく歩き回った。取ってきた種子の一部は学内で栽培試験をした。何年で花が咲くか。成長期間の違いで下界ではすごく早く花を咲かせる。

チングルマは、翌年に花を咲かせる。立山室堂の日当たりの良いところでも1年でせいぜい本葉を2〜3枚で冬になる。

ゼンテイカは3年で花が咲く。4月と夏休みをして10月に咲くものもでる。

ミヤマキンバイは春に出た花軸が花を咲かせながらどんどん伸びて咲き続ける。栄養成長期と生殖成長期で葉形が変わるものがある。

いろいろな経験を楽しませて貰った。一緒に行った学生が立山に登ったことがないというので、小林先生から午後の仕事をさぼって登ってきなさいと許可が出た。昼食を食べて出発。雷鳥の羽根に白い羽が見えてくる頃、雄山三山を縦走した。真砂の尾根では雪庇が出来ていた。半分駆け足で、4時の最終バスまで何とか間に合った。

先生方には、今後、大学を取り巻く環境が益々悪くなり、教育と研究が一層やり難くなると思われますが、健康には十分に留意されてご活躍ください。卒業生の皆様には、大学教育、いや教育行政全般が少しでも悪くならないように政治を見張り、また富山大学にご支援頂きたいと、お願いいたします。



### 最終講義

## 富山大学38年余の回想

増田 恭次郎 先生 大学院理工学研究部講師

●平成19年3月8日(木) ●理学部棟2F 多目的ホール

### 増田恭次郎先生の最終講義を聴いて

理学部 蒲池浩之(37生)



増田先生に大変お世話になった卒業生のひとりとして、先生の最終講義の内容について報告いたします。

＜大学紛争でのお出迎え＞

先生は、1969年11月1日付けで、小林貞作先生の研究室に助手として着任されました。当時の東京都立大学での博士課程在籍途中のことでありました。熊本での植物学会で修士課程での仕事を発表され、その足で富山に向かったとのこと。また、着任早々、大学紛争により本部が封鎖され、その年の授業や入学試験では大変な苦労をなされたようです。今の時代からはちょっと想像できません。このような中、先生が一貫して取り組んでこられた植物の組織培養に関する研究が始まっていたのです。

＜植物組織培養での迷宮入り＞

先生が実験材料として用いてきた植物種は多岐に渡ります。最終講義では、キクイモ、キクニガナ、クレピスキヤピラリス、シキザキベゴニア、“断崖の女王”、ゴマ、ペチュニア、ヤコウボクを用いた組織培養の研究についてお話しされました。どの研究も大変興味深く、当時、これらの研究に関わった学生さんは、とても良い経験をされたのではないのでしょうか。個人的には、特にキクニガナのカルスが光周性を保持しているという話に興味を持ちました。

＜ゴマ系統保存を引き継いで＞

ご存知のように、富山大学は、ゴマに関する研究で世界的に有名です。先生は、1987年以来、ゴマの系統保存に関する業務を小林貞作先生から一手に引き継いでおられます。現在保存されているゴマの系統数は、約910系統ということで、系統保存における苦労話に加え、植物としてのゴマの特性についてお話しされました。この膨大な系統数を長年に渡り維持管理されてきたことについては、改めて頭が下がる思いです。私事ではありますが、先生には、植物に関するたくさんのお話を教えていただきました。温室で先生の育てている植物についての話を聴くのが私の楽しみでもあり、時には、貴重な植物を研究用や実習用、あるいは観賞用にいただいたことも数えきれません。最後に、この場を借りて感謝申し上げます。

# 富山大学のコンピューターの父 故田中専一郎先生を偲んで

## 富山大学のコンピューターの父 故 田中専一郎先生

富山大学に初めてコンピューターが設置されたのは昭和40年3月で、初代の計算機室長に田中専一郎教授が就任され、同年4月15日には計算センターの「電子計算機室開室式」が行われ、第1世代コンピューターOKITAC 5090-C型システムが産声を上げたのでした。1965年(昭和40年)は世界の汎用コンピューターIBM System 360が誕生した翌年であり、2年間の準備期間と概算要求の成果で、当時の金額3,300万円で購入されたコンピューターOKITACは富山大学最初の大規模機械設備でした。このコンピューターは、メモリ容量が4,000ワード（1W=50bit、約24KB）、加算が40ms、乗算に至っては200数十msという、今日のPCの100万分の1以下のスピードの、巨大な鉄の筐体をした沖電気製トランジスタ型自動コンピューターで、OKITACとはOKI Transistor Automatic Computerを意味していました。



先生を囲んで



OKITAC 5090-C



「北日本新聞掲載」より：第1世代コンピューターOKITAC 5090-C システムと電子計算室



叙勲記念文集・写真集 表紙

この時代は各大学が競ってコンピューターを設置しましたが、富山大学は比較的早く導入した大学の一つで、その後昭和49年3月にFACOM 230-45S中型コンピューターへの更新も田中専一郎先生が中心になって進められました。田中先生は6期12年間の長きにわたってセンター長を務められ、1998年にはその功績を称えて勲三等旭日中級章が授与されました。まさしく「富山大学のコンピューターの産みの親」であり「富山大学のコンピューターの父」として、永遠に記憶されるべきであり、このコンピューターを使って多くの卒業生が巣立っていきました。

今日、総合情報基盤センターへと組織は発展しましたが、その基盤は田中先生によって築かれて来たといっても過言ではありません。1974年に完成した計算機センターの第1期の増築建物は、田中先生の計画で実現したものです。

以後3回増築され、今日の総合情報基盤センターへと発展してきました。



「北日本新聞1998年11月3日の叙勲記事」



2世代コンピュータのお披露目



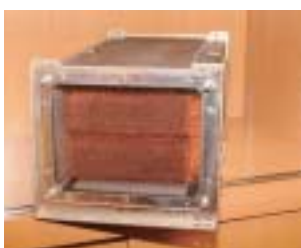
「北日本新聞1966年10月4日「私の研究室」」



左側が旧計算センター、右側が計算機センター（最初はエンジ色）



FACOM 230-45S



OKITACのコアメモリ



プログラム作成



FACOMを操作

故田中専一郎先生を偲んで

# 温和な大男の印象

林 有一 (13物)

故田中専一郎先生追悼記事の原稿依頼を受けてから2週間経過しても思いがまとまらなく、締め切り間際にお酒の力を借りながら支離滅裂な文を綴っています。

お酒と言えば、先生ほど強い方に今でも出会った事ありません。学生とのコンパの席で注がれるのを全て受けて、それも丼の蓋のような大杯で。私が数学科の助手になってはじめての頃、週2回程度二人だけのセミナーを開いて頂いていました。夕方からウイスキーをコーヒークップで2杯ぐらい飲んでから「チョット、そこ証明してみてください」、数学もお酒も鍛えられました。

昨年(2006)9月28日の夕方帰宅すると訃報メールが届いていました。慌てて先生のお宅へ車を走らせて、奥様とお二人のお嬢様から、前日(27日)にお亡くなりになったご様子などを聞かせて頂きました。お嬢様のお一人に先生のお妹さんと間違えて話しかけてしまいました。いくら似ているからといっても歳が合わないし、後で「御令妹さまの...」と弔電を打った事を思い出して、動揺している自分に気がきました。

先生との出会いは、1964年の秋でした。翌年4月に開設される計算センター(現総合情報基盤センター)の技官に内定したので、センター長に就任予定の先生のゼミ生と共に県立大谷技術短期大学でのコンピュータ実習に参加させてもらいました。私にとってこれがコンピュータの実物を見た最初でした。

この当時の先生の印象は温和な大男でしょうか、「横綱の大鵬が現れるまでは、身長と体重の両方とも私を超えるお相撲さんはいなかった」との言葉をよく覚えています。

私は1966年の秋に文理学部数学科の助手に異動し、半年の間計算センターの技官と兼任していました。その頃、先生は京都大学数理解析研究所へ流動研究員として長期出張されていて月に一度くらいしかお会い出来ませんでした。先生の留守の間、残された田中ゼミの学生のセミナーを代講していましたが、何が何だか分からず夢中でした。

京都での先生のお仕事に「最小自乗法におけるAlgorithmについて、京都大学数理解析研究所講究録18(1966)」があります。非線型最小2乗法の数学的な研究としては先駆的なものでした。同じ頃にヨーロッパで類似な数値解法が提案されていた事を後で知りました。数学的な考察が始まったのは70年代に入ってからなので、英文で発表されていれば「田中の方法」と呼ばれるようになっていたのではと残念です。私の初めての学会発表(1975)はこの方法を未知パラメータを含む常微分方程式の数値解法に応用したものでした。先生は、この後、本来の専門である差分方程式の研究にお戻りになりました。

60年代の終りは学園紛争の嵐に巻き込まれ、評議員をされていたので学生との団交などで神経をすり減らす日々をお過ごしでした。覆面、ゲバ棒にヘルメットの集団が襲ってくるので、計算センターの後ろの生垣の穴から野球場の方へ脱出されるのを見張っていたのも思い出話になってしまいました。

70年代に入ってから胃・十二指腸潰瘍で胃を半分以上切除され、二度の長期入院をされました。しかし、元気に回復され、教育・研究に取り組んでおいでになる先生に身近に接し、先生の庇護の下で先生の定年退官(1988、3月)まで過させて頂きました。私も先生のご退官と同時に富山大学を去りました。古い思い出を述べましたが70年代以降については、他の方にお譲りして筆を置きます。

包容力があり、細やかな気配りで、私達を見守り、ご指導下さった故田中専一郎先生のご冥福をお祈り申し上げます。合掌

故田中専一郎先生を偲んで

# 半世紀ほど過ぎてしまいました

岡田 勝二 (15数)

大学に入学し、楽しい日々を過ごすことができました。教養課程の講義は高校時代の受験勉強と違い、勉強はこのようなものなのかと目を開かれました。数学では田中先生の集合論・記号論理学がそうです。45年前のことです。

講義の最初に先週学習したことの理解を確認する小テストがあり、「勉強してくださいね」と講義を締めくくるのが常でした。

当時は文理学部理学科で入学し、専門課程に進むとき専攻を決めるようになっていました。また電子計算機が導入されるということが話題になっていて、田中先生が計算機メーカー各社に赴き、調査されていることも知られていました。数学が好きであったこともあり、迷わず数学で申し込みをしました。

専門課程の数学は、抽象そのものであり、論理が精緻極まりなく、ほとんどの科目で挫折を味わいました。それでもゼミを受講できることになり、電子計算機を扱う田中先生のゼミにお願いしました。ニュートン・ヤコビ法で近似方程式の係数を導き出すものです。基礎から一つ一つ積み上げる方法で学んで行きました。先生と学生5人でタバコを吸うので、灰皿はすぐに一杯になり、部屋中がタバコ臭くなることは必定です。区切りが悪いときは、食堂で夕食を取り、戻って続きをすることも多々ありました。

私（達）のレベルでは卒業研究・卒業論文はまず不可能です。代わりに、テーマを決め、それに関する書籍を元に理解を深め、数学教室全体で発表するというのをしました。私には「オートマトン・チューリングマシン」が与えられ、ようようのことで発表にこぎつけました。友人たちは何に取り組んでいるのか、聞く余裕も覗く余裕もありませんでした。

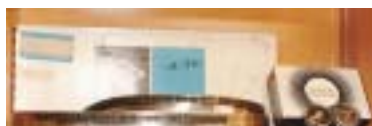
ご縁をいただき、計算センターの仕事に就くことができました。が、自らテーマを見つけ研究するという資質が無いことを自覚し、民間企業に移りました。

結婚式の媒酌人もお願いしました。前日夜に電話したところ、相手女性を紹介するための情報を伝えていないことがわかり、父親があわてて連絡するという始末です。間拔けな親子です。

一度、横浜戸塚の会社に来られ、その足で自宅にも立ち寄って頂きました。息子が幼稚園に進む少し前でしたから、4歳くらいでしょうか。「賢そうなお子さんですね」と言うことはマナーでしょうが、話し方・目の動きなどから推察されたのでしょうか。私も想像もしなかった結果を得ました。

今回の企画で半世紀ほど前のことを思い出していると、次々と他のことも出てきます。それに浸っていても、余生が充実するわけでもありません。孫たちにいつか話してやれるよう、この思い出を抱き精一杯健康に生きていたいと思うばかりです。

ありがとうございました。



OKITAC 5090-C のラインプリンター活字ベルトとタイプライター・リボン

故田中専一郎先生を偲んで

# 先生と一緒に行動して

高井 正三 (21物)

その時、初代センター長だった田中先生には、私が計算センターに勤務して1年を過ぎる前、1974年3月のことでした。

FACOM 230-45S中型コンピューターが導入され、初めてOS (Operating System) を使うことになったので、三日三晩、一日12時間以上連続してOS/IIというOSの勉強を、先生と一緒に文法書や解説書を一字一句トレースしながら、根気強く続けたことが、一番の思い出になっています。

朝の9時頃から夜の11時頃まで3日間集中して、当時としては画期的な概念を、すべて理解し吸収しようとして、最初の計算センター事務室で延々と議論しながら、OSの機能と役割、その使い方を理解していったのでした。このときの経験がその後の粘り強さと、飽くなき探求心を刺激したのでしょう。新しいものや未知のものに対する挑戦力をつけてくれました。それ以来、男子たるもの「三日三晩寝ずに勉強すれば一応の話はできるようになる」と自信が付いてきました。

学生時代、数値解析の講義を受けていたのですが、説明が大変詳しく、教科書の進捗は本当にゆっくりだったことを思い出しました。その後、センターのゼミ室で約半年間、数学のゼミ生と一緒に統計学の講義をしてもらいましたが、理解できるまで説明してもらったことが思い出されます。本当に親切な先生に巡り会って良かったと思います。

センター長としての田中先生の思い出は、人員補強や予算要求で事務局に出かける時、よく私を連れて行ってくれました。当時経理部の主計課長前にあの巨体を据えて、私の目の前で要求交渉をし始める訳です。話は大変わかりやすく、センター職員の仕事がいかに沢山あるか、必要なものは何と何で、1個30万円近くする集合ディスクパックが消耗品であることなどを、詳しく、微に入り細に亘って説明する訳です。そして最後にはあの大きな体を深々と曲げて、丁寧に何度も何度もお辞儀してお願いするのですから、大抵の事務の人は「先生、解りましたから、今日はお引き取り下さい。」と言って、渋々承知したものです。私は、数学者の先生にしては、意外と最後は論理的じゃなく、「お願いの一点張り」なのだなーと思ったものでした。しかしその効果は抜群でした。いろいろな難問を画して一つ一つ解決していったのでした。

私はと言えば、若気の至りで、思いついたらどんどん色々な問題を挙げ、その解決策を提案したものです。そんな私に対して、「分かりました、分かりました」と言って、何時も一週間くらいはその懸案を暖めておられました。私の思いつきを戒めようとしたのでしょう。一週間も経つと、その問題や提案は、問題でなくなる場合も多々ありました。田中先生は3回も胃の手術をされて、私が先生の胃を3度も小さくした原因だったのではないかと、深く反省しているところです。もう遅きに失しているのですが、でも本当に、良い思い出ばかりです。

ありがとうございました。



OKITAC 5090-C 用紙テープ鑽孔機  
(OKITAC 5091)



1パック30万円のディスク  
容量：58MB (直径45cm 高さ14cm)

故田中専一郎先生を偲んで

# わかりやすい指導

大森 克史 (22数)

昨年9月末に、恩師田中専一郎先生がご逝去されました。

先生は1998年11月に勲三等旭日中綬章を受章され、その時は祝賀会をして、受章を心からお祝いを申し上げました。今回、理学部同窓会会誌の特集として田中先生追悼特集が企画されたということで、田中ゼミの卒業生として、思い出を書く機会をいただいたことを光栄に存じます。

先生は私の大学のゼミの指導教授であり、また現在の私の専門である数値解析学との出会いを作っていたいただいた恩師でもあります。私が大学へ入学したのは1970年で、そのころは情報工学科がいくつかの大学に設置され始めた時期で、高校時代からコンピュータへのあこがれを漠然と持っていた私は、自分には工学部よりは理学部の方が合っているからという理由で、富山大学文理学部理学科（数学）に入学しました。田中先生からは関数方程式論、応用解析論、数値解析論等を教わりましたが、先生の丁寧すぎるほどのわかりやすい指導のおかげで、現在の自分があると思っています。

4年のゼミでは、L. Collatzの『関数解析と数値解析』（原書）を講読しました。もともと、コンピュータを使った数学に興味があったものですから、コンピュータの実習等を期待していたのですが、ゼミではもっぱら関数解析の勉強に終始し、数値解析の勉強やコンピュータ実習には進めなかったことを覚えています。しかしながら、これが後で大いに役立つことになりました。というのは、その後大学院に進み数値解析を本格的に勉強する事になるわけですが、大学院の指導教授である中島勝也先生がCollatzと大変懇意にしておられたこともあってか、マスター1年の時のゼミテキストがCollatzの本だったからです。現在、私の専門は有限要素法ですが、この分野は主としてJ. L. Lionsを中心とするフランス学派と呼ばれる研究者グループによって整備され今日に至っていますが、その本質は関数解析を使って導かれた理論を背景にした数値シミュレーション技法システムであり、まさにゼミで読んだ本のポリシーの実現例になっており、田中先生の先見性に感服するとともに、改めて先生の御指導に対して感謝する次第です。

先生には及ばないものの、私もOKITAC5090以来30年来コンピュータとつきあい、コンピュータの進歩の恩恵を受けながら数値解析の研究に携わっております。かつてビッグ・チャレンジといわれた大規模数値計算もワークステーションやPCで比較的容易に解けるようになり、並列計算機や超並列計算機を駆使してさらなる複雑系へ挑戦するまでに数値解析学や計算工学が進歩してきましたが、その背景にはコンピュータ技術の進歩のみならず応用数学をはじめとした応用数学研究者の研究成果があることを忘れてはならないと思います。田中先生は現在ほどコンピュータの性能が高くない1960年代において、いち早くコンピュータを利用した応用数学の重要性を認識され、優れた業績を数多く残されたことは高く評価されるものと思います。

最後に、田中先生に今一度感謝の意を表し、ご冥福をお祈りして結びの言葉とします。



OKITAC 5090-C で使用されたコンソールと論理回路基盤（センター特別史料コーナー）

故田中専一郎先生を偲んで

# 父親的な存在

池田 榮雄 (24数)

田中先生が勲三等「旭日中綬章」を受章されたとき、同窓会報にお祝いの言葉を書かせて頂きました。

そのとき、「どうか、いつまでもお元気で、頼りない後輩の面倒をみてください」という文章で締めくくらせて頂きました。しかし、大変残念なことに昨年9月27日午後14時52分に逝去されてしまいました。

思い起こせば、大学に入学して4年生のとき田中ゼミに配属させてもらってから、30年もの間、いつも近くから様々な助言をして頂きました。私の人生の節目には常に田中先生の助言がありました。私自身、卒業後はIT関係の企業に就職を考えていました。しかしその年は「オイルショック（トイレットペーパー買占め事件等）」と呼ばれた年で、企業の採用数等は激減してしまい、就職浪人をする羽目になってしまいました。その時、「数学教室内に勉強しながら働けるポストがあるけど、どうですか？」と声をかけてくれました。この田中先生の甘い（いや 優しい）言葉に乗ったことが、私の人生を大きく変えることになってしまいました。

その後、けっこうしんどい時期が続きましたが、何とか研究者として仕事ができるようになりました。この過程においても、様々な助言をして頂きました。田中先生は全国の国立大学に先駆けて富山大学の情報基盤の基礎を作られた方で、「富山大学におけるコンピュータの父」と呼ばれているようですが、私にとっては、正に父親的な存在でした。

最近、国立大学は法人化され、新聞紙上で御存知のことと思いますが、地方の国立大学法人の運営は厳しくなってきております。地方大学として、地域社会の文化・経済・産業を担うリーダーの輩出と地域に還元できる研究の推進が今大学にいる我々の使命と考えております。

田中先生、どうか富山大学の前途を見守っていて下さい。弘子奥様は暫くの間、富山で生活される予定と聞いております。

最後に、田中専一郎先生の御冥福と奥様の御健勝をお祈り致します。



タイガー計算機と15桁のSOBAX電卓

故田中専一郎先生を偲んで

# 若いときはデンチュウと言われていた

由田 義巳 (24数)

私は渡辺先生の自主ゼミに参加していながら、将来はコンピュータ関係の仕事に就きたいとの考えから、渡辺先生のゼミに島田君を残して、数値解析を学ぶために田中先生のゼミに入った。もうだいぶ昔のことだから良く覚えていないのだが、ゼミには池田君、泉君、大野君と私の4名だったように記憶している。

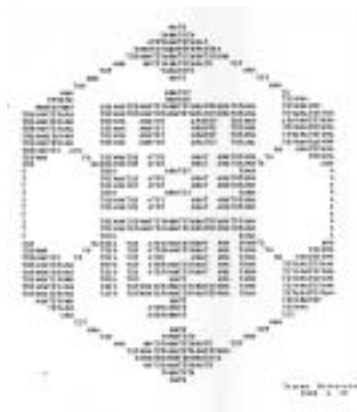
池田君は別として、他のものは英語のテキストでゼミが進行するわけもないと考えられたか、日本語の森正武著「数値解析」(共立出版)を使った。思い出してみるのだが、どのようにゼミが進行していたかが思い出せない。先生と雑談ばかりしていたような気がする。

先生はそのころ教授会だけでなくいろいろな会議に参加されていたので非常に忙しくゼミにはほとんど遅刻なされていたのではなかっただろうか。ゼミの時間になると田中先生の部屋で先生が買っておいたコーヒーを沸かし皆で飲んでいただいていたことしか思い出せない。

先生は自分のことを「若いときはやせてノッポだったので皆からデンチュウ(電柱=田中)と言われていた」とよく言っていたが、今では大きいおなかとトレードマークのサスペンダーが思い出される。また昔は厳しい先生だったと聞か、私たちを教えるころには仏(ほとけ)の田中先生になっていた。

学部を卒業してから、私は専攻科数学課程に進んだが、先生の部屋をいつも自分の部屋のように使わせていただき感謝している。ここでも学習したことは全然思い出せないが、ドリップのコーヒーを飲んでいただいていたことは思い出す。その後私は高岡第一高校に就職したのであるが、田中先生も定年後新設の高岡法科大学にこられ、先生と島田君と私と3名で高岡法科大学の数学の入試問題を作成したことも思い出される。

現在私はサスペンダーをつけている。(学校では私だけである。)しかし私は、おなかには出ていないがチビである。これが先生との違いである。



開室式で配られた校章のプリント・アウト

# 「絆」の四年間

## 卒業

生物圏環境科学科（平成19年3月卒業）

竹内 美貴



大学に入学してから早くも4年間が過ぎ去ろうとしています。思えば入学したての時は授業数の多さに「ついていけるのか？」と不安になったり、単位制という制度の難しさに悩んだりしていたことが思い起こされます。しかし、それらを乗り越えてこられたのも先生方や友人たちのあたたかい助言や励ましがあったからだと思います。例えば、ある先生には授業の質問に行くと、よく分からなくて同じことを何度も聞いてしまいましたが見つかるまで根気よく教えていただいたことがとても記憶に残っています。また友人には実験のレポートの課題である計算が何度やってもうまくいかなかったときにできるまでとことん付き合ってくれたことを今でも思い出します。

特に感じたのが4年生のときでした。研究室の仲間という第二の家族ともいうべき人が増え、研究に行き詰ったときはともに悩み、良きアドバイスをくれました。また行事の多い研究室だったため楽しいこともたくさん共有した一年間でした。

そして何より大きかったのが家族の支えでした。初めての一人暮らしでホームシックにかかったときは電話で励ましてくれ、帰ったときには好きな料理を用意してくれたり、ここまでがんばってこれたのは本当に家族のおかげです。

来年度は大学院に進学する予定ですが、さらに人との輪を広げ、絆を大切にし、人としてさらに成長できる2年間にしたいと思っています。

富山大学理学部数学科（平成19年3月卒業）

漕江 厚子

学生時代を振り返っているとなぜか最初に勉強のことばかりが出てきます。特にテスト前の図書館の6階での勉強会を思い出します。だいたい集まるのは4人くらいでしたが、20人ほどで6階を占領したこともありました。

図書館なのにわいわいと騒ぎながら頭を捻って勉強をしていました。いつの間にか図書館の6階は私や友達の勉強の指定場所となっていました。ちらりと覗くと誰かが勉強をしていたりすることがよくありました。3年生になると授業で会うことも減ったので、そこで会えるととても嬉しかったのを覚えています。

次に思い出すのはみんなとの飲み会です。女子の数が少なかったせいか仲が良く、女子だけで集まって飲んでいたこともよくありました。

私にとってみんながいる所はとても落ち着く場所でした。

一人暮らしでしたので、自分が誰かと話すことのできる場所はそこだけだったからだだと思います。

大学生にもなると4年間など本当にあっという間でした。これからみんなに滅多に会えなくなるという事がいまいち実感できず、不思議な感じです。私は進学するのであと2年間は何人かの友達と会えますが、それもすぐに終わってしまいそうで寂しく思います。だからこそ、これからの2年間でまたさらに大事にしていこうと思っています。

# 理学部での九年間

富山大学大学院理工学研究科博士後期課程生命環境科学専攻（平成19年3月修了）

今野 紀文

1998年の春、右も左もわからないまま、私はこの富山大学理学部に入学しました。

子供の頃から生き物や自然に対して関心があり、父親の顕微鏡を引っ張り出してきては、池の中のミジンコやゾウリムシをよく観察したものでした。そういったことが切っ掛けで、私は富山大学で生物学を専攻し、学部、修士、博士課程と9年間で恩師（内山実先生）や多くの友人、諸先輩方とともに有意義なときを過ごしました。

私が在籍した9年間は、理学部にとっても変革のときであったことが思い出されます。学部4年次から修士2年次にかけて、総合研究棟の竣工や理学部の改修工事が行われ、我々も旧研究室のあった理学部1号館から現研究室のある総合研究棟6Fへとたくさんの機器を運び込みました。確かに、新築の研究室は冷暖房完備で快適ですが、今となってはあの独特の雰囲気をもった茶色い旧校舎が懐かしく思えてなりません。不便なことも多かった旧校舎ですが、“理学部の歴史”が感じられるなかで大学生活を送れたことを誇りに思っています。

私は、この春に学位を頂き、9年間お世話になった理学部を旅立ちます。そして、生物学の駆け出し研究者として社会に出て行きます。富山大学理学部で過ごした9年間で、研究者として生きていくという方向性を私に与えてくれたのだと感じています。ご縁があれば、またいつかこの富山大学で今度は学生を指導する側として貢献できることを願っています。

最後に、長い間、我々学生のためにご尽力してくださいました先生方、学務および教務部の職員の方々に深く御礼を申し上げます。

# 学生時代の一番の思い出

富山大学理学部地球科学科（平成19年3月卒業）

村田 雅俊

大学で4年間様々な授業を受けてきたが中でも一番印象に残っているのは、3年生のときに行った地質調査法実習である。それまで、授業で調査の方法や何を見るか、そこから何がわかるかなど、色々と学んできたが、実際に自分で調査を行うのはその実習がはじめてで正直何をしたらいいのかわからなかった。

結果として、自分たちの調査法実習はいいできたとは言えないが、4年生で一人調査を行うにあたりいい経験となった。また、それよりも4年生の間一緒に研究室でやっていく仲間たちと3週間寝食を共にし、協力し合って、仲を深められたことがすごくよかった。そのとき一緒に実習を行ったのは自分を混ぜて5人で、みんな違う研究室に入ったものの、学生部屋が全員一緒に、とても楽しく過ごすことができた。

卒論を一応ながら完成させ、無事卒業できたのはもちろん先生方のおかげでもあると同時に、彼らと共に楽しくやることができたからであると思う。

みんな、とても楽しい学生生活をありがとう！

# 「研究」は一人ではできない

富山大学大学院理工学研究科（平成19年3月修了）

池田 陽一



あれもしたい、これもしたいと思っていたけれども、結局そのほとんどが十分できないまま修士課程の2年間で過ぎてしまった感じです。けれども、この磁気・低温物理学研究室(以下、1研)でしか経験できない事というのが、それなりにたくさんあって、それはそれで満足しています。中でも特に印象深いものが、今年の磁性国際学会で発表できたことです。

今年の国際学会は京都で開催されたため、雰囲気としては国内の学会とあまり変わらなかったのですが、同じようなテーマで研究している海外の方と議論でき、また、良い刺激ももらえました。そのとき痛感したことは、まだまだ(物理の)知識が浅いということと、英会話ができていないということです。また、普段の研究生活でも感じてはいたのですが、「勉強」は一人でできるけれども、「研究」は一人、一つの研究室だけではできないということです。

進学した当初は、それなりに目的意識をもって勉強していたつもりだったのですが、今思い返すと、もう少し先を考えて幅広く勉強しておくべきだった、もっともっと真剣に勉強しておくべきだったとも思えます。でも、学会に参加した経験があったからこそ、このように新たな向上心をもつことができたのかもしれない。今後、もっともっと精進していきたいと思います。

最後に、お世話になった1研のスタッフのみなさま、また、経済的・精神的にも支えてくれた家族に厚く御礼申し上げます。

# 生物圏の仲間

富山大学理学部生物圏環境科学科（平成19年3月卒業）

酒徳 昭宏



私は、この富山大学の生物圏環境科学科に入学して本当に良かったと思っています。素晴らしい先生方にも恵まれ、卒業研究で用いた海産の二枚貝であるイガイ類に出会うことを通して、自然への関心がより一層高まりました。そして何よりも、これから一生付き合っていきたい最高の仲間に出会うことができました。

入学したての頃、初めての一人暮らしや勉強のことで不安になることもしばしばあったのですが、みんな同じような不安をもっており、お互いに助けあうことで解決することができ、仲間の大切さに気づきました。特に私たちの学年は仲がよく、4年生になってそれぞれの研究室に配属が決定し、お互いに忙しくなってみんなで会う機会が減るため、交換日記を回すことにしました。それぞれ最近どんなことがあったのか、楽しかったこと、ビックリしたことなど、とりとめのないことを一言ずつ書いては回し、みんなでコメントを書いていた。また、月一回の定期的な飲み会も開くことにしていました。このような場では遊ぶだけでなく、研究や私生活の悩みも相談していました。

このような心を開くことのできる最高の仲間に出会うことができました。

何かあつという間の4年間でしたが、これからの人生で大きな意味のある4年間だった気がします。これから進学する者、就職する者、それぞれ進む道は違うけれども、大学生活で出会った仲間はこれからも宝物になると思います。

## 我輩は『理系』の女である

富山大学理学部生物学科（平成19年3月卒業）

森岡 絵里

「互いに理系の女、精進しようね」小学校時代の友人から届いた年賀状にあった言葉である。…理系の女？そのとおり。

理学部卒というだけで、世間では私たちが理系の女と呼ぶのだ。しかし、高2の時に理系のクラスに入って以来、いわば理系の世界で生活してきた私が、自分が理系だということを意識することはほとんどなかった。そんな私が、初めて自分が『理系の女』であることを認識したのは大学2年生の春休み。きっかけは私の叔父が先生をしている某大学社会学部社会学科のゼミ旅行に参加したことだ。行き先はメキシコ。未知の世界である。

この旅で私が強く感じたことは、世の中には様々な人がいて、様々なことを感じているということだ。しごく当たり前のことであるが、それはメキシコという国の文化や自然、人々に触れる中で感じたことであると同時に、社会学科に所属する文系の学生に囲まれて過ごす中で感じたことでもある。彼らは、私とは違うことに興味を持ち、私とは違うことを学び、私とは違う視点で物事をみている。

共に旅をして意見を交換し合うことにより、自分がいかに『理系』的な視点で物事をみているか——簡単に言うと「観察し仮説を立て、実証し考察する」という気質を持っているか——に気付かされた。私は理系の女だったのか…新鮮な驚きを得た旅であった。おそらく理学部学生ならば、多かれ少なかれ同様の気質を持つ節があるのではないかと思う。私はこの気質こそ理学部学生として誇るべきところなのではないかと考えている。

ゆえに今後とも『理系の女』として精進していくつもりである。

## 大学院生活振り返って

富山大学大学院理工学研究科博士前期課程 数学専攻（平成19年3月修了）

内山 和哉

私は富山大学を卒業した後、2年間、富山大学の大学院で学びました。大学院の講義の内容は、近年のトピックスなども取り入れられた、非常に興味深いものばかりでした。さすがに難しい話題もいくつかありましたが、どの講義も学び甲斐のあるものだと感じました。そう感じたのも、諸先生方が日頃から研究や授業準備に対して努力を惜しまないのだからだと思います。

大学院生のときには、研究会にも何度か出席させていただきました。研究会では私が学んでいる分野の最先端の結果を聞くことができ、とてもいい刺激になりました。

大学院生活を振り返って一番感慨深いことは、指導教官の先生との共同研究という形で、論文を書いたことです。その論文のことでは本当に先生にお世話になりました。論文の内容に関して、研究会で発表する機会も与えていただきました。準備など、いろいろ大変なこともありましたが、とても貴重で有意義な経験をさせていただきました。

大学院では指導教官の先生をはじめ、様々な先生方にお世話になりました。本当に感謝しております。この場をお借りして、お礼の言葉を述べさせていただきます。

# 同窓会事務局通信

## 富山大学理学部同窓会会員数

2007年5月1日現在

| 区 分                     | 数学   | 物理学  | 化学   | 生物学  | 地球科学 | 生物圏<br>環境科学 | 計    |
|-------------------------|------|------|------|------|------|-------------|------|
| 富山大学文理学部理学科             | 476  | 482  | 537  | 285  | 0    | 0           | 1780 |
| 富山大学理学部                 | 1103 | 1032 | 991  | 891  | 777  | 327         | 5121 |
| 国立大学法人富山大学理学部           | —    | —    | —    | —    | —    | —           | 0    |
| 小 計                     | 1579 | 1514 | 1528 | 1176 | 777  | 327         | 6901 |
| 富山大学理学専攻科               | 10   | 13   | 11   | 20   | 0    | 0           | 54   |
| 富山大学大学院理学研究科            | 84   | 212  | 165  | 136  | 85   | 7           | 689  |
| 富山大学大学院理工学研究科           | 60   | 99   | 109  | 103  | 70   | 50          | 491  |
| 国立大学法人富山大学<br>大学院理工学教育部 | —    | —    | —    | —    | —    | —           | 0    |
| 小 計                     | 154  | 324  | 285  | 259  | 155  | 57          | 1234 |
| 理学部同窓会準会員（在学生）          | 225  | 176  | 175  | 163  | 180  | 135         | 1054 |
| 理学部同窓会準会員（在大学院学生）       | 19   | 20   | 35   | 30   | 11   | 21          | 136  |
| 理学部同窓会準会員（教員）           | 18   | 14   | 13   | 14   | 14   | 13          | 86   |
| 理学部同窓会特別会員（旧教員）         | 10   | 18   | 17   | 16   | 13   | 4           | 78   |
| 理学部同窓会特別会員（その他）         | —    | —    | —    | —    | —    | —           | 0    |
| 小 計                     | 272  | 228  | 240  | 223  | 218  | 173         | 1354 |
| 合 計                     | 2005 | 2066 | 2053 | 1658 | 1150 | 557         | 9489 |

（注）学部と大学院の重複者および物故者もカウントに入っています。ただし、旧教員の物故者は除いています。

## （2）物故者

田中専一郎先生（元数学科教員 H18. 9. 27）

島 田 博 司（物理 S59卒 H18. 6）

柴 原 優 心（生物 S51卒 H17. 9）

## （3）教員の異動

|    |           |         |                 |           |
|----|-----------|---------|-----------------|-----------|
| 退職 | H19.03.31 | 常 川 省 三 | 大学院理工学研究部（理学）教授 | 物理学科(12物) |
|    | H19.03.31 | 鳴 橋 直 弘 | 大学院理工学研究部（理学）教授 | 生物学科      |
|    | H19.03.31 | 平 山 実   | 大学院理工学研究部（理学）教授 | 物理学科      |
|    | H19.03.31 | 増 田 恭次郎 | 大学院理工学研究部（理学）講師 | 生物学科      |

### （理学部同窓生で他学部教員退職者）

|    |           |         |                 |                  |
|----|-----------|---------|-----------------|------------------|
| 退職 | H19.03.31 | 伊 藤 紀 男 | 大学院理工学研究部(工学)教授 | 機械知能システム工学科(14物) |
|    | H19.03.31 | 奥 井 健 一 | 大学院理工学研究部(工学)教授 | 機械知能システム工学科(12物) |
|    | H19.03.31 | 畠 山 豊 正 | 大学院理工学研究部(工学)教授 | 物質生命システム工学科(12物) |

|    |           |       |                 |          |
|----|-----------|-------|-----------------|----------|
| 辞職 | H18.12.31 | 金 坂 績 | 大学院理工学研究部（理学）教授 | 化学科(12化) |
|----|-----------|-------|-----------------|----------|

|    |           |         |                                         |
|----|-----------|---------|-----------------------------------------|
| 採用 | H19.04.01 | 野 崎 浩 一 | 大学院理工学研究部（理学）教授<br>ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系 |
|    | H19.04.01 | 榎 本 勝 成 | 大学院理工学研究部（理学）助教<br>ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系 |

|    |           |                     |                                |
|----|-----------|---------------------|--------------------------------|
| 昇任 | H19.04.01 | 大学院理工学研究部（理学）助教授→教授 |                                |
|    |           | 松 田 恒 平             | 生命・情報・システム学域ヒューマン・生命情報システム学系   |
|    |           | 森 脇 喜 紀             | ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系           |
|    | H19.04.01 | 大学院理工学研究部（理学）講師→准教授 |                                |
|    |           | 木 村 巖               | 生命・情報・システム学域数理情報科学学系           |
|    | H19.04.01 | 大学院理工学研究部（理学）助手→准教授 |                                |
|    |           | 山 崎 裕 治             | 生命・情報・システム学域ヒューマン・生命情報システム学系   |
|    |           | 兼 村 晋 哉             | ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系           |
|    |           | 小 林 かおり             | ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系           |
|    |           | 前 川 清 人             | 生命・情報・システム学域ヒューマン・生命情報システム学系   |
|    | H19.04.01 | 大学院理工学研究部（理学）助手→助教  |                                |
|    |           | 幸 山 直 人             | 生命・情報・システム学域数理情報科学学系           |
|    |           | 村 川 秀 樹             | 生命・情報・システム学域数理情報科学学系           |
|    |           | Lee I-Yin Sandy     | ～H20.3.31 ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系 |
|    |           | 横 山 初               | ナノ・新機能材料学域物質物性基礎科学学系           |
|    |           | 吉 原 新               | ～H21.3.31 環境・エネルギー学域地球環境システム学系 |
|    |           | 石 崎 泰 男             | 環境・エネルギー学域地球環境システム学系           |
|    |           | 羽 多 宣 子             | 環境・エネルギー学域地球環境システム学系           |
|    |           | 田 中 大 祐             | ～H23.3.31 環境・エネルギー学域地球環境システム学系 |

|         |           |                      |         |
|---------|-----------|----------------------|---------|
| 配置<br>換 | H19.04.01 | 大学院理工学研究部（理学）助教授→准教授 |         |
|         |           | 青 木 一 真              | 池 田 真 行 |
|         |           | 岩 坪 美 兼              | 大 澤 力   |
|         |           | 菊 川 茂                | 菊 池 万 里 |
|         |           | 古 田 高 士              | 島 田 互   |
|         |           | 藤 浩 明                | 永 井 節 夫 |
|         |           | 藤 田 安 啓              | 水 島 俊 雄 |
|         |           | 渡 邊 了                |         |
|         |           | 池 本 弘 之              | 石 岡 努   |
|         |           | 柏 木 健 司              | 唐 原 一 郎 |

#### （４）同窓会名簿の発行

理学部同窓会名簿2007年度版を、株式会社サルトを通じて6月25日に発行しました。この名簿発行に協力いただきました会員各位と、賛助広告および賛助金を醸出して下さった皆様に感謝の意を表します。この名簿は会員相互のコミュニケーションのため大いに活用して下さい。くれぐれも目的外使用のないようお願い申し上げます。なお、第53回（平成17年、2005年）以降の卒業生については、会員情報が不足しております。同窓会活動の円滑化のために、会員情報を同封の「現況・出欠通知票」にてお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

#### （５）理学部石標標記の書き換え

2007年5月18日の理学部同窓会理事会において、理学部長から理学部校舎前の石標標記の書き換えについての諮問があり、現行の標記「理学部、大学院理工学研究科」を「理学部、大学院理工学研究部、大学院理工学教育部および生命融合科学教育部」と書き改めたいこと銘板は現行の花崗岩に薄く同質の花崗岩の版を被せること経費は大学当局が負担することが提案されました。これに対し、現行の組織名称に合わせないと不都合であるこ

と、現行石標の背面文字はそのまま残すことで、同窓会理事会は全会一致で本件案を了承しました。この理学部エントランス左手前の石標は理学部同窓会設立50周年記念として、約200万円で寄付したのですが、近々の石標標記が書き換わりますのでご了承下さい。

## (6) 2007年度理事会報告

日 時：2007年5月18日(金)17:38～19:27

場 所：理学部小会議室(2号館2F)

出席者：名誉会長：平井美朗、 会 長：平田卓郎、 副会長：石川克

常任理事：高井正三、 水島俊雄、 西井淳、 内山実、 蒲池浩之

監査委員：川田邦夫、 松山政夫

理 事：吉川和男、 小川清美、 畠山豊正、 村橋猛、 岩坪美兼、 菅澤剛一、 松田恒平

事 務 局：畠山節子 (計17名+事務局)

### 議事

#### 1. 理学部校舎前の石標の書き替えについて

前記(5)の通り。

#### 2. 挨拶

平田会長から、富山大学同窓会連合会が設立されるので、今後とも協力をお願いしたいこと、また平井名誉会長から、教員が準会員として同窓会会員になったことの発言があった。

#### 3. 2006年度業務報告

高井常任理事から、議案書(資料1)に基づいて2006年度の業務報告があり、議案書に漏れている事項について、以下の補足説明があった。

- 1) 12月22日に、Blogを開設し、メール・アドレス所有者に対して、ブログの書き込み用ユーザIDとパスワードを送付したが、利用者は殆ど皆無であること。
- 2) 名簿の発行については株式会社サラトに調査から発送までのすべてを依頼して作成中であること。
- 3) 会誌について、「事務局便り」を送付し、2007年6月末を目処に32ページ程度の会報を発行予定で、準備作業を進めていること。

#### 4. 2006年度一般会計決算報告、特別会計決算報告

高井常任理事から、議案書に基づいて2006年度の一般会計決算報告があり、収入の部について、入会金が7割程度の納入率であること、教員の納入は5割程度であること、等の追加説明があった。支出の部については、今後3年分の名簿が2007年の6月下旬の発行であるため、予算の執行がなかったこと。ホームページのBlog化とサーバのレンタル料、独自ドメイン名などに1,112,160円を支出したこと。差し引き残額の内訳が説明された。続いて、特別会計決算報告があり、審議の結果、原案通り了承された。

#### 5. 2007年度会計監査報告

監査委員の松山政夫氏から、議案書の監査報告書に基づいて、4月25日に監査を行ったところ、帳簿、証拠書類、預金通帳が監査の結果、適正に処理されていた旨の報告があり、了承された。なお、入会金の収入見込みについて質問があり、今後大学当局から在学生名簿の公開があるので、督促状を出し続けることで、未納金の回収を、会費が納入されるまで、督促したい考えの回答があった。あくまでも終身会費なので、督促し続けることで、了承された。

#### 6. 2007年度の事業計画(案)と予算(案)

高井常任理事から、議案書に基づいて2007年度度の事業計画(案)の説明があり、今年度は総会を7月に、8月には講演会を含むホームカミング・デーを実施したいこと。9月に新規事業として工場等見学を、10月6日(土)には同窓会連合会設立総会があり、その記念講演に理学部同窓会員の化学科第8回卒のYKK副会長の北野芳則氏の講演があること。講演テーマは「師 吉田忠雄と私」であること。理学部の動員義務数は25人であること。是非多くの参加をお願いしたいこと。会長には経済学部同窓会越嶺会会長のインテックの中尾哲雄会長が就任し、副会長には各学部同窓会長が就任すること。幹事長候補に高井理学部常任理事が就任予定であることの説明があった。

また、翌年2月には同窓会主催で、卒業予定者にBlogの使い方の講習会を開催したいこと、3月の学位記授与式には各学科に同窓会の会長、副会長、理事等が同窓会から挨拶をして、同窓会活動のPRをすること、等の計画案の説明があり。その計画案に基づく予算案の説明があった。特に新規事業費の計上、記念品の文鎮からロゴ・マーク入りのマグネット・クリップへの変更、同窓会連合会への分担金（5万円＋前年度入会金の1％＝計約10万円）などの説明があった。これに対し、同窓会活動の活性化について活発な提案、意見交換、討論があり、審議の結果、以下のように決まった。

- 1) 総会は8月11日(土)とし、総会に先立って理事会を開催し、総会は10分以内の形式的な形とすること。
  - 2) 総会の日に恩師を最低3人招待し、簡単なスピーチか、リレー講演をお願いすること。これに合わせて同級会開催を呼びかけること。事前に会報でアナウンスすること。このための経費として、予備費を50万円程度とし、会議費に招待する恩師の旅費を上乗せし、30～35万円程度を計上すること。
  - 3) 理学部同窓会の名称（愛称）を募集すること。
  - 4) 各学科の卒業式の謝恩会の会場費という名目で5万円を計上し、支援すること。各学科の卒業生理事を中心に同窓会からの挨拶を実施し、同窓会の役割と重要性を説明すること。
  - 5) 在学生に対し、同窓会の存在意義を理解してもらうため、事業計画には学生に還元できる行事を組み込むこと。
  - 6) 会報作成に理学部広報委員の協力をお願いすること。
  - 7) 新任教員3名から会費を徴収すること。
  - 8) 理学部のホームページの作成支援に広報関係費から支援すること。
- なお、各学科から5月中に、総会に招待したい恩師の氏名を事務局へ連絡すること。

以上。

## (7) ホーム・カミング・デーの開催

日時 2007年8月11日(土) 10:00～12:00

場所 富山大学理学部多目的ホール (2F)

・理学部紹介ビデオ

見学 ・雪氷学講座・・・雪発電システム、過冷却現象、南極の水

・レーザー物理学実験室、有機化学実験室 (7F)、太陽光発電システム、等

## (8) 同窓会総会開催案内

日時 2007年8月11日(土) 14:00～18:00 場所 ボルファートとやま(4F)

### 1. 記念講演 14:00～15:30

講演1 演題：「“物づくり”の面白さー液体酸素生成装置の作製ー」

講師：森 克徳 先生 (現工学部長、大学院理工学研究部教授、13物)

講演要旨：最近、カリキュラムの中に、創造工学特別実習、自由課題製作実験、自由演習といった授業科目があり、学生のアイデアで“物づくり”に取り組めるよう教育環境が整備されてきています。ここでは、私共の研究室の学生が実際に取り組んだ“物づくり”テーマ、「酸素気体を簡便に液化する液体酸素生成実験装置作製」の紹介をします。

略歴：1965年 富山大学文理学部理学科卒業、

1970年 東北大学大学院理学研究科博士課程修了

1970年 富山大学文理学部助手

1979年 富山大学教養部助教授

1986年 富山大学教養部教授

1993年 富山大学工学部教授

2006年 富山大学大学院理工学研究部教授

大学院理工学教育部長、工学部長



講演2 演題：「ホヤの金属濃縮機構の分子生理学—富山大学で芽生えた研究の展開—」

講師：道端 齊（みちばた ひとし）先生（広島大学大学院理学研究科 教授）

講演要旨：約30年前富山大学で芽生えたホヤのバナジウム濃縮の研究は、濃縮機構のカギを握るバナジウム結合タンパク質の遺伝子クローニングや3D構造解析により大きく前進し、濃縮機構の全容解明と濃縮されたバナジウムの生理機能の解明を指呼の間に捉えつつあります。私が追いつけた夢を、同窓生の方々に分かり易く解説します。

略歴：1971年 新潟大学理学部生物学科卒業



1976年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)

1976年 富山大学講師

1982年 富山大学理学部助教授

日本学術振興会ナポリ臨海実験所派遣研究員(1982～1983)

米国ブランダイス大学化学教室PD博士研究員 (1986～1987)

1991年 広島大学理学部附属臨海実験所助教授

1992年 同教授（所長併任1992～2005）

2003年 大学院理学研究科生物科学専攻教授(配置換)

この間、日本学術会議研連委員、全国国立大学臨海臨湖実験所長会議議長、(社)日本動物学会学会賞等選考委員長、Editor-in-Chief of Zool. Sci.、理学研究科副研究科長、大学院委員長、評価委員長、教育研究評議会評議員等を歴任、一連の研究で平成7年度日本動物学会賞と井上学術賞を受賞した。2001年から国際バナジウムシンポジウム組織委員。

## 2. 2007年度総会 15:45～16:15

1) 同窓会長挨拶

2) 議長選出

3) 総会

(1) 2006年度業務報告、会計決算報告および会計監査報告

(2) 2007年度事業計画、会計予算案

(3) 役員紹介

(4) 富山大学同窓会連合会の設立総会について

(5) 同窓会会誌の発行と同窓会名称の募集について

(6) その他

## 3. 懇親会 16:30～18:00（会費 3,000円）

招待恩師：旧物理学科教員 佐藤 清雄氏、旧生物学科教員 道端 齊氏

## 4. 現教員出席者氏名

(数学) 予定者なし (物理学) 飯田敏先生、水島俊雄先生、(化学) 平井美朗先生、金森寛先生、山口晴司先生、野崎浩一先生、(生物学) 山田恭司先生、小松美英子先生、(地球科学) 竹内章先生 (生物圏環境科学) 蒲池浩之先生

## (9) 理学部同窓会名称の募集

この度の理事会で、理学部同窓会名称（愛称）を会員から募集します。応募される方は、現況・総会出欠通知票にて、推薦する同窓会名称（愛称）とその根拠を記入の上、返送して下さい。

【例】理窓会（りそうかい）

根拠：理学部同窓会の意味に、理想（ideal）をかけています。

教育学部は富山大学教育学窓会、経済学部は越嶺会（えつれいかい）、薬学部は富山薬窓会、工学部は仰ぐ岳会（こうがくかい）、高岡短大は創己会（そうきかい）となっています。人文、理、医には名称がありません。

ブログ URL=<http://www.science-alumni-u-toyama.org/>

## 富山大学同窓会連合会設立総会・記念講演会・祝賀会開催について（案内）

富山大学各学部同窓会会員各位

平成19年6月吉日

富山大学同窓会連合会設立準備会  
発起人代表 富山大学経済学部同窓会越嶺会  
会長 中尾 哲雄

拝啓 さわやかな初夏を迎え、富山大学各学部同窓会会員各位には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は各学部同窓会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、富山大学では新しい富山大学の誕生を機に、全学的規模で同窓会活動を活発にし、同窓生の学部横断的な交流を図って親睦を深め、同窓の連帯によって総合力を結集して、大学の更なる発展に貢献するため、富山大学同窓会連合会を結成することとなりました。

この同窓会連合会の具体的な活動としましては、今までの準備会で以下のような内容が検討され、企画実施していくことで合意を得ました。

1. 各同窓会支部活動の支援
2. 富山大学の将来計画実現のための協力支援
3. 広報活動（Newsletterの発行、Webへの掲載、同窓会Blogの開設）
4. 講演会や大学行事への協力支援
5. ホーム・カミング・ディ開催、市民参加の大学各種行事への支援
6. キャンパスの環境整備（プロムナード、良い環境の整備）支援、実現協力
7. その他同窓会連合会の目的を達成するための事業

つきましては、標記の「富山大学同窓会連合会設立総会・記念講演会・祝賀会」を下記により開催しますので、各学部同窓会会員各位には万障繰り合わせの上、是非ご出席を賜りますようご案内申し上げます。

では、暑さの夏を乗り越え、10月の設立総会で会えることを楽しみにしております。

敬具

### 記

1. 日時 平成19年10月6日(土) 15:00～19:00（受付開始：13:30）

2. 場所 名鉄トヤマホテル 4階 瑞雲の間（記念講演会・総会）

4階 祥雲の間（祝賀会）

### 3. プログラム

(1) 記念講演会 15:00～16:10

講演題目 「師 吉田忠雄と私」

講演要旨 学生時代に教えていただいた先生方、企業に入り出会ったYKKの創業社長・吉田忠雄、私の成長過程でそれぞれの師からまなんだことを今振り返り、実社会で経験したこと、自分がYKKでやってきたことから、大学では何を教え、学ぶべきか考えてみたい。

講 師 YKK株式会社代表取締役副会長 北野 芳則氏（文理学部化学科8回、1960年卒）

(2) 設立総会 16:30～17:00

開会宣言

発起人挨拶（中尾越嶺会長）

来賓挨拶（西頭学長）

設立総会議長選出

議事

会則制定

役員選出

設立宣言

連合会会長就任挨拶

閉会宣言

(3) 記念祝賀会 17:30～19:00 (4F祥雲の間へ移動)

開会、乾杯、来賓挨拶、歓談、万歳三唱、閉会

4. 会費 10,000円

5. 案内ホームページ

富山大学のホームページ（日本語）から入り

訪問者INDEX〔卒業生〕から

富山大学同窓会連合会のホームページ

[www3.u-toyama.ac.jp/alumni/](http://www3.u-toyama.ac.jp/alumni/)

6. 問い合わせ

連絡先：〒930-8555 富山市五福3190

富山大学経済学部内

富山大学同窓会連合会設立準備会事務局

(富山大学経済学部同窓会越嶺会事務局 担当：米原俊孝)

電話：076-445-6411、ファクシミリ：076-445-6419

電子メール：alumni@ctg.u-toyama.ac.jp

以上

## 資料 1 2007年度富山大学理学部同窓会理事会

日時 平成19年5月18日(金) 17:00～

場所 富山大学理学部小会議室 (2F)

- 議事 (1) 2006年度業務報告  
 (2) 2006年度会計決算報告及び監査報告  
 (3) 2007年度事業計画及び会計予算案  
 (4) 総会について  
 (5) 富山大学同窓会連合会の設立について  
 (6) 会報の発行について

(1) 2006年度業務報告 (2006年4月1日～2007年3月31日+5月18日まで)

- |      |        |                                                         |
|------|--------|---------------------------------------------------------|
| 2006 | 4.3    | 新理事名簿作成                                                 |
|      | 4.21   | 理事会開催案内の郵送                                              |
|      | 4.24～  | 理事会資料作成                                                 |
|      | 5.8    | 会計監査 (同窓会事務室)                                           |
|      | 5.15   | 2006年度第1回理事会 (富山大学内オープンカフェAZAMI)                        |
|      | 5.19～  | 3月卒業生のデータの入力                                            |
|      | 6.9～   | 「理学部同窓会事務局便り」発行の準備 (校正、タックシール印刷等)                       |
|      | 7.13   | 「理学部同窓会事務局便り」発送                                         |
|      | 7.20～  | 理事会の資料作成                                                |
|      | 7.26   | 2006年度第2回理事会 (富山大学多目的教室1番)                              |
|      | 8.3～   | 総会の資料作成等                                                |
|      | 8.12   | 2006年度総会、記念講演会、懇親会 (ボルファートとやま)                          |
|      | 8.18～  | 会員名簿作成作業                                                |
|      | 11.13  | 理学部教員への入会願                                              |
|      | 11.15～ | 現況通知票のデータ入力等                                            |
|      | 12.4   | 特別選抜者の「入会金・終身会費の納入について」を教務係へ提出                          |
|      | 12.22  | 同窓会ブログCH <sub>3</sub> NH <sub>2</sub> 開設、電子メールで利用希望者に通知 |
|      | 12.25～ | 入会費入金業務等 (郵便振込の為)                                       |
| 2007 | 1.9    | 卒業予定者の連絡先通知票と依頼文配付                                      |
|      | 1.12   | 文書「理学部同窓会への個人情報の提供と使用許諾について(お願い)」を各学科長に送付し、理学部学生全員に配布   |
|      | 2.5    | 文書「入会金未納者の納入お願い」を各学科長に配布し、依頼                            |
|      | 2.16   | 大学院生の「入会金・終身会費の納入について」を教務係に配布依頼                         |
|      | 3.5    | 前期・後期日程合格者分の「入会金・終身会費の納入について」を教務係に発送依頼                  |
|      | 3.30～  | 会計簿締切、入力等                                               |
|      | (中間報告) |                                                         |
|      | 4.19   | 理事会開催の案内状を郵送                                            |
|      | 4.20   | 理事会資料作成                                                 |
|      | 4.25   | 会計監査 (同窓会事務室)                                           |
|      | 5.18   | 2007年度理事会開催 (富山大学理学部小会議室)                               |

## **(2) 2006年度会計決算報告および会計監査報告**

別紙の通り

## **(3) 2007年度事業計画案**

- ・名簿発行（3年に1回） 2007年6月下旬
- ・総会（記念講演会、懇親会） 2007年7月末（8月11日(土)に決定）
- ・ホームカミングデー 2007年8月（8月11日(土)に決定）
- ・講演会（恩師2名） 2007年8月（8月11日(土)に決定）  
（恩師を囲んだ同級会、同窓会開催の提案）
- ・工場等見学会 2007年9月
- ・富山大学同窓会連合会設立総会 2007年10月6日(土) 15:00～名鉄トヤマホテル
- ・講習会（ブログの使い方） 2008年2月
- ・学位記授与式（卒業式）支援 2008年3月
- ・入学式（保護者懇談会） 2008年4月

## **(3－2) 2007年度会計予算案**

別紙の通り

## **(4) 総会について**

7月末の計画が否決され8月11日(土)に決定

## **(5) 富山大学同窓会連合会の設立について**

10月6日（土）15:00～（受付13:30～）

## **(6) 会報（会誌）の発行について**

6月末に(株)サラトから発送予定

## 2006年度 理学部同窓会 一般会計決算報告

2006年4月1日～2007年3月31日

### 【収入の部】

(単位：円)

| 費 目     | 予算額       | 決算額       | 差引額        | 摘 要                             |
|---------|-----------|-----------|------------|---------------------------------|
| 入 会 金   | 3,440,000 | 1,790,000 | △1,650,000 | H18入生82名(251名中)、編入5名、院生2名、4年生1名 |
| 入 会 金   | 0         | 2,040,000 | 2,040,000  | H19年度入学生(20,000円×102名)          |
| 入 会 金   | 870,000   | 410,000   | △460,000   | 教員(41名)                         |
| 預 金 利 息 | 93,472    | 94,363    | 891        | 定額貯金及び普通預金利息                    |
| 懇 親 会 費 | 0         | 22,000    | 22,000     | 総会懇親会費                          |
| 雑 収 入   | 10,000    | 20,000    | 10,000     | 会長、理事会員                         |
| 名 簿 代 金 | 0         | 8,000     | 8,000      | 2004年版2冊                        |
| 前年度繰越金  | 3,418,999 | 3,418,999 | 0          | (H18入生92名含む)                    |
| 計       | 7,832,471 | 7,803,362 | △29,109    |                                 |

### 【支出の部】

(単位：円)

| 費 目       | 予算額       | 決算額       | 差引額       | 摘 要                         |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------------------------|
| 事 務 費     | 1,000,000 | 754,679   | 245,321   | 事務用品費、印刷費、通信費、事務協力費、手数料、慶弔費 |
| 備 品 費     | 200,000   | 185,745   | 14,255    | 保管庫2台、複写機1台                 |
| 名 簿 作 成 費 | 1,350,000 | 0         | 1,350,000 | 6月下旬発行予定                    |
| 広 報 関 係 費 | 2,000,000 | 1,112,160 | 887,840   | ホームページリニューアル費、サーバーサービス代     |
| 会 議 費     | 200,000   | 138,517   | 61,483    | 理事会、総会                      |
| 人 件 費     | 660,000   | 628,532   | 31,468    | 事務員手当、労働保険料                 |
| 記 念 品 費   | 250,000   | 250,162   | △162      | 文鎮代(3月と9月卒業生238個)           |
| 研 究 補 助 費 | 500,000   | 500,000   | 0         |                             |
| 予 備 費     | 1,672,471 | 0         | 1,672,471 |                             |
| 計         | 7,832,471 | 3,569,795 | 4,262,676 |                             |

\* 収入(7,803,362円)－支出(3,569,795円)＝4,233,567円(次年度繰越金)

|       |      |             |
|-------|------|-------------|
| 繰越金内訳 | 定額貯金 | 2,000,000 円 |
|       | 普通預金 | 2,226,375 円 |
|       | 現 金  | 7,192 円     |
|       | 計    | 4,233,567 円 |

## 2007年度 理学部同窓会 特別会計決算報告

2007年4月1日～2008年3月31日

### 【収入の部】

(単位：円)

| 費 目    | 予算額       | 決算額       | 差引額     | 摘 要    |
|--------|-----------|-----------|---------|--------|
| 前年度繰越金 | 1,853,000 | 1,853,000 | 0       |        |
| 利 息    | 0         | 101,600   | 101,600 | 定額貯金利息 |
| 計      | 1,853,000 | 1,954,600 | 101,600 |        |

### 【支出の部】

(単位：円)

| 費 目    | 予算額       | 決算額       | 差引額 | 摘 要 |
|--------|-----------|-----------|-----|-----|
| 次年度繰越金 | 1,954,000 | 1,954,000 | 0   |     |
| 計      | 1,954,000 | 1,954,000 | 0   |     |

繰越金内訳      定額貯金      1,853,000円  
                  普通預金      101,600円  
                  計            1,954,000円

#### \* 同窓会備品

- パソコン一式 (H12. 5)    ○保管庫    2台 (H18. 6)
- 複写機    1台 (人文と共有)

### 平成18年度 監 査 報 告 書

私達は、平成18年4月1日から平成19年3月31日までの理学部同窓会の会計事務処理および手続きなどの業務処理について、平成19年4月25日に同窓会事務室にて監査を行いました。  
 監査の結果、適正に処理されているものとして認めました。  
 上記の通り報告いたします。

平成19年4月25日

富山大学理学部同窓会

監査委員 川田 邦夫 (印)

監査委員 松山 政夫 (印)

## 2007年度 理学部同窓会 一般会計予算（案）

2007年4月1日～2008年3月31日

### 【収入の部】

（単位：円）

| 費 目     | 2006年予算   | 2007年予算   | 差引額      | 摘 要                                      |
|---------|-----------|-----------|----------|------------------------------------------|
| 入 会 金   | 3,440,000 | 3,120,000 | △320,000 | 156名（学部生247名、編入生11名から、H19入生97名、編入生5名を引く） |
| 入 会 金   | 870,000   | 40,000    | △830,000 | 理学部教員2名                                  |
| 預 金 利 息 | 93,472    | 500       | △92,972  | 定額貯金92万円の利息（4/2）                         |
| 雑 収 入   | 10,000    | 0         | △10,000  |                                          |
| 前年度繰越金  | 3,418,999 | 4,233,567 | 814,568  | H19入生97名分、編入生5名（204万円）納入済みのため            |
| 計       | 7,822,471 | 7,394,067 | △428,404 |                                          |

### 【支出の部】

（単位：円）

| 費 目   | 2006年予算   | 2007年予算   | 差引額        | 摘 要                  |
|-------|-----------|-----------|------------|----------------------|
| 事 務 費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0          | 印刷費、通信費、事務用品費、手数料他   |
| 備 品 費 | 200,000   | 300,000   | 100,000    | パソコン一式・プリンター一式更新     |
| 名簿作成費 | 1,350,000 | 1,350,000 | 0          | 会員名簿6月下旬発行予定         |
| 広報関係費 | 2,000,000 | 1,500,000 | △500,000   | 会報年1回発行、サーバーレンタル料金、他 |
| 事業費   | 0         | 300,000   | 300,000    | 別紙事業計画               |
| 会議費   | 200,000   | 350,000   | 150,000    | 理事会、総会、恩師招待旅費        |
| 人件費   | 660,000   | 660,000   | 0          | 事務員手当                |
| 記念品費  | 250,000   | 500,000   | 250,000    | 理学部ロゴ入りマグネット・クリップ等   |
| 卒業式支援 | 0         | 300,000   | 300,000    | 各学科へ会場借り上げ費補助5万円     |
| 分担金   | 0         | 100,000   | 100,000    | 富山大学同窓会連合会分担金        |
| 研究補助費 | 500,000   | 500,000   | 0          |                      |
| 予備費   | 1,672,471 | 534,067   | △1,138,404 |                      |
| 計     | 7,832,471 | 7,394,067 | △438,404   |                      |

## 2007年度 理学部同窓会 特別会計予算（案）

2007年4月1日～2008年3月31日

### 【収入の部】

（単位：円）

| 費 目    | 2006年予算   | 2007年予算   | 差引額      | 摘 要 |
|--------|-----------|-----------|----------|-----|
| 利 息    | 101,600   | 0         | △101,600 |     |
| 前年度繰越金 | 1,853,000 | 1,954,000 | 101,600  |     |
| 計      | 1,954,600 | 1,954,600 | 0        |     |

### 【支出の部】

（単位：円）

| 費 目    | 2006年予算   | 2006年予算   | 差引額 | 摘 要 |
|--------|-----------|-----------|-----|-----|
| 次年度繰越金 | 1,954,600 | 1,954,600 | 0   |     |
| 計      | 1,954,600 | 1,954,600 | 0   |     |

## 資料2 富山大学理ブログCH<sub>3</sub>NH<sub>2</sub>利用（投稿者）マニュアル

高井 正三 (21物)

### 1. はじめに

2006年12月22日、待望の理学部同窓会BLOGサイトが出来上がってきましたので、この理学部同窓会ブログ（BLOG）サイト「CH<sub>3</sub>NH<sub>2</sub>」を開設しました。

ただし、Movable Type社へのライセンス数を限定した契約の関係で、学科毎に利用者IDとパスワードを共有することとしましたので、自分の投稿については割り当てられた利用者IDとパスワードをご使用下さい。このため、同じ学科内の他の利用者のBLOG記事を、間違えて消去するなどの操作をしないように、特に注意をお願い申し上げます。

このBLOGサイト「CH<sub>3</sub>NH<sub>2</sub>」は理学部同窓生みんなの情報交換の場です。同窓会の目的である「会員相互の親睦を篤くし、合わせて理学部との連携を密にし、その発展と社会への貢献に寄与する」ため、同窓生同士の双方向コミュニケーションを活性化する場として、互いにルールを守って楽しく運営していきたいと思えます。

皆様には、このBLOGの各記事に対するコメントやトラック・バックも募集しています。コメントやトラック・バックの方法はトップ・ページ左下にあるマニュアル・ページ

(<http://www.science-alumni-u-toyama.org/manual/index.html#manual>)

により確認して下さい。この後でも解説しますが、大いにコメントを書き込んで下さい。

なお、このBLOGサイトを提供しているレンタル・サーバの利用制限により一定量以上の記事や容量の大きい写真などを掲載できない場合がありますので、予めご了承下さい。

ブログの管理者＝投稿者画面への入り口は次のURLです。

URL=[http://www.science-alumni-u-toyama.org/weblog/mt.cgi?\\_\\_mode=logout](http://www.science-alumni-u-toyama.org/weblog/mt.cgi?__mode=logout)

管理者＝投稿者はここから、各ブログの利用者ID・パスワードでログインして下さい。

では、このBLOGサイト「CH<sub>3</sub>NH<sub>2</sub>」を十二分にお楽しみ下さい。

### 2. 各学科ブログの共通利用者 IDとパスワード

| 学科 Blog       | 学科共通利用者 ID | パスワード     |
|---------------|------------|-----------|
| 数学科 Blog      | math06     | lh6qu9hy  |
| 物理学科 Blog     | phys06     | uxtzogod  |
| 化学科 Blog      | chem06     | 32k22edw  |
| 生物学科 Blog     | bio06      | 2ikkwsxf  |
| 地球科学科 Blog    | earths06   | bm3nezar  |
| 生物圏環境科学科 Blog | envbc06    | jfnbjgxxg |
| 教員 Blog       | inst06     | fsk92rct  |
| 会報入稿用 Blog    | script06   | d14944wz  |

なお、この利用者IDとパスワードは利用規則を遵守の上、互いに仲良く使用しましょう。

### 3. ログインと記事の投稿方法

ブログの管理者＝投稿者画面への入り口は次のURLです。ここからログインします。

URL=http://www.science-alumni-u-toyama.org/weblog/mt.cgi?\_\_mode=logout

ブログへ投稿したい人は、予めブログ投稿用のハンドル名（ニックネーム）と卒業年の回数と卒業学科を用意してください。例えば「黒部五郎(21物)」とします。黒部五郎がハンドル名で、21物は第21回（昭和48年）物理学（当時は専攻）卒業という意味です。

図1のようにログインした後は、該当学科の「エントリー投稿」をクリックします（図2）。新規エントリー「XXX学科Blogエントリー投稿」画面が表示されますので（図3）、

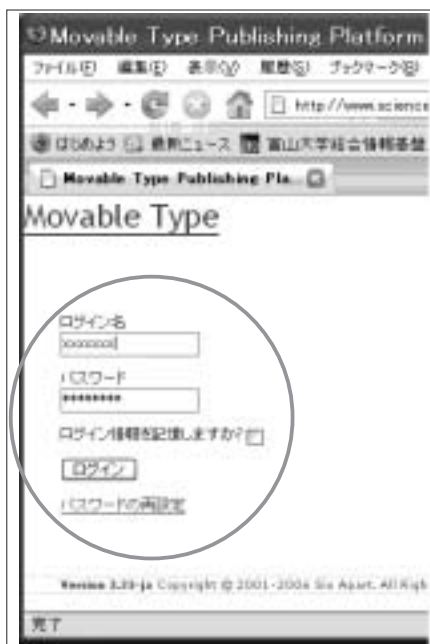


図1 ログイン画面



図2 該当学科のブログ・メニュー画面



図3 新規エントリーを選択し、投稿文入力



図4 公開の状態で「公開」を選択、確認ボタンを押下

投稿文を書き込んで行きます。即ち、新規に記事を作成していきます。

まず、タイトルを簡潔に書き、カテゴリーを選択します。カテゴリーには今のところ次のものが用意してありますが、「新しいカテゴリーを追加する」を選択して、新規カテゴリーを追加できます。「用意されているカテゴリー」には、同窓会行事、トピックス(話題)、講演会開催、同級会、思い出、情報提供、会員の近況、会員の活躍があります。カテゴリー分類ができないときはMISC (Miscellaneous、種々雑多な)を選択してください(図3)。

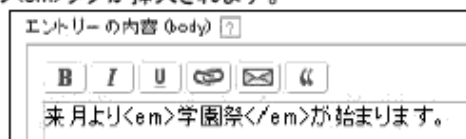
次にエントリーの内容(body)を書き込んでいきます(図3)。このとき強調したいテキストの表示(B)やイタリック体表示 (I)、アンダーライン表示 (U)、ハイパーリンク、メールアドレス、引用などには、エントリーを修飾するためのツール・ボタンを使用します(図5)。

### (例)1.斜体の設定

1.斜体をかけたい文言を選択して、ボタンをクリックします。



2.htmlの<em>タグが挿入されます。



この利用者マニュアルの記事の一部を、依頼者のヨシダ印刷(株)のマニュアル(ヨシダ印刷株式会社企画事業部デジタルメディア課の坂下真弓著)から引用しています。詳しくはこのマニュアルを参照して、Blogに投稿して下さい。

図5. ツール・ボタン

内容に補足がある場合は「追記(more)」に書き込みます。

更に、公開の状態メニューで「公開」を選択し、確認ボタンを押します(図4)。

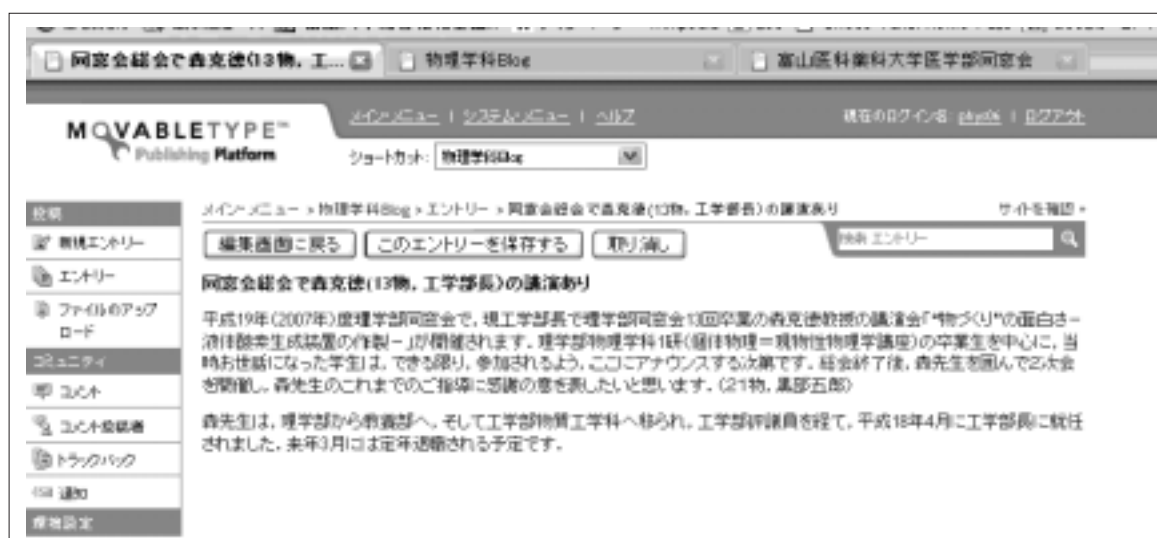


図6. エントリーの確認画面、OKなら「このエントリーを保存する」ボタンを押下

エントリーを確認し、保存した後(図6)は、これをBLOGに公開するために、左側のメニュー一覧から、「サイトを再構築」ボタンをクリックします。図7のダイアログ・ボックスが表示されますので、[再構築] ボタンをクリックしてください。画面に「再構築中…」が表示され、「すべて再構築できました」という表示が出たら、「サイトを再確認」をクリックして、投稿内容がBlogに反映されているかを確認します(図8)。



図7 サイトの再構築ダイアログ



図8 再構築結果の表示

最後にメニュー一覧の一番下にある「ポータルサイトの更新」ボタンを押下し、図9のような「ブログポータルサイトの更新が完了しました。」と表示されれば、完了です。

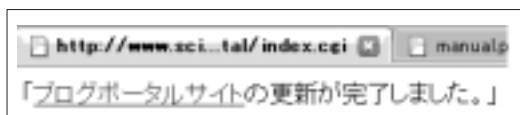


図9 ポータルサイトの更新メッセージ

#### 4. コメント書き込み

ブログ記事へのコメントは、このサイトを閲覧している方なら、誰でもBlogポータル画面から自由に書き込めます(図10)。書き込んだ後は「確認」してから、「投稿」します。

また、書き込んだコメントは、Blogポータル画面から確認することができます(図11)。



図10 コメントの書き込み画面



図11 コメントを表示して確認

# 国立大学法人富山大学理学部同窓会会則

昭和54年11月 7日制定  
 昭和57年11月13日制定  
 昭和63年 8月13日制定  
 平成 2年10月27日制定  
 平成 3年10月26日制定  
 平成10年 8月 8日制定  
 平成17年 8月 7日制定  
 平成18年 8月12日制定

## (趣旨)

第1条 本会は、国立大学法人富山大学理学部同窓会と称する。

## (目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を篤くし、併せて国立大学法人富山大学理学部との連絡を密にし、その発展と社会への貢献に寄与することを目的とする。

## (事業)

第3条 本会は、前条の目的を達するために次の事業を行なう。

- (1) 国立大学法人富山大学理学部との連携・協力
- (2) 交流会・講演会等の開催
- (3) 会員相互の親睦を篤くする事業活動
- (4) 会員名簿の整備、発行
- (5) 全学同窓会連合会事業活動
- (6) その他本会の目的達成するための事業

## (組織)

第4条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 通常会員 富山大学文理学部理学科卒業者、同理学専攻科修了者、富山大学理学部卒業者、同大学院理学研究科修了者、同大学院理工学研究科修了者、国立大学法人富山大学理学部卒業者、同大学院理工学研究科修了者および同大学院理工学教育部（理学）修了者
- (2) 準会員 国立大学法人富山大学理学部、同大学院理工学研究科、および同大学院理工学教育部（理学）に在学する者ならびに国立大学法人富山大学大学院理工学研究部（理学）教員（ただし、通常会員を除く）
- (3) 特別会員 国立大学法人富山大学大学院理工学研究部（理学）旧教員、同理学部旧教員、富山大学理学部旧教官および文理学部旧教官で理事会が推薦した者なお、国立大学法人富山大学理学部、富山大学理学部および文理学部縁故者で特に理事会の承認を得た者を特別会員とすることができる
- (4) 名誉会員 本会に特に功労があつて理事会の推薦によって会長が決定した者

## (事務所)

第5条 本会の事務所は、国立大学法人富山大学理学部内に置く。

## (支部)

第6条 本会は、会員の多数存在する場所に支部を置くことができる。

2 前項の支部を設置しようとするときは、その責任者を定めて支部規定、支部会員の名簿とともに、本部に報告するものとする。

## (役員)

第7条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 名誉会長 1名
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名
- (4) 常任理事 若干名
- (5) 理事 若干名
- (6) 監査委員 2名
- (7) 最高顧問 必要数
- (8) 顧問 必要数

## (役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、本会の事業を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはこれに代行する。

3 常任理事は、本会の総務を処理し、事業を執行する。

4 理事は、理事会に出席し会務を審議し、事業の執行を支援する。

5 監査委員は、会計を監査する。

6 最高顧問および顧問は、総会および理事会に出席して意見を述べることができる。

(役員選出)

第9条 会長および副会長は、理事会において通常会員中より推薦する。

2 常任理事は、理事会において互選する。

3 理事および監査委員は、総会において互選する。

(役員任期)

第10条 会長、副会長、常任理事、理事および監査委員の任期は2年とし再任を妨げない。ただし、2期を超えることはできない。

2 理事の交代は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長)

第11条 本会の名誉会長は、国立大学法人富山大学理学部長がこれに当たる。名誉会長は、本会の運営などに協力し会長の諮問に応ずる。

(最高顧問・顧問)

第12条 本会に、最高顧問、顧問を必要数置くことができる。最高顧問は本会の特別会員で学長経験者とし、顧問は本会の会長および副会長経験者とする。

(総会・理事会)

第13条 総会は、毎年1回以上開催する。

2 理事会は、必要の都度、会長がこれを招集し、開催する。

3 総会および理事会の議決は、出席会員の過半数の同意によって決し、可否同数の場合は議長が決する。

4 総会は、インターネット上において開催されるものも有効とする。

(会員情報)

第14条 通常会員は、氏名、現住所、職業および勤務先などに異動があった場合は、その都度本部に通知するものとする。

2 会員は、氏名以外の会員固有の情報を同窓会名簿に記載しない権利を行使できるものとする。

(会費)

第15条 会員は、会費として2万円を、入会時に納入するものとする。

2 既納の会費は、返納しない。

3 寄付金は、随時これを受け付けるものとする。

4 総会の承認を経て、臨時に特別会費を徴収することができるものとする。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(予算・決算)

第17条 予算および決算は、理事会および総会の承認を経なければならない。

(報告の義務)

第18条 本会の事業結果、収支決算および会計監査結果は、総会において報告するものとする。

(事務)

第19条 本会の事務を処理するため専任の事務員を置き、会長がこれを委嘱し、手当を支給する。

2 会員への案内、連絡、意見徴収等にはホームページおよび電子メールを使用することができる。

(会則の改正)

第20条 本会の会則を改正しようとするときは、理事会の審議を経て、総会において決定するものとする。

附則 この会則は、昭和55年4月1日から施行する。

附則 この会則は、昭和58年4月1日から施行する。

附則 この会則は、平成1年4月1日から施行する。

附則 この会則は、平成2年4月1日から施行する。

附則 この会則は、平成4年4月1日から施行する。

附則 この会則は、平成10年4月1日から施行する。

附則 この会則は、平成17年4月1日から施行する。

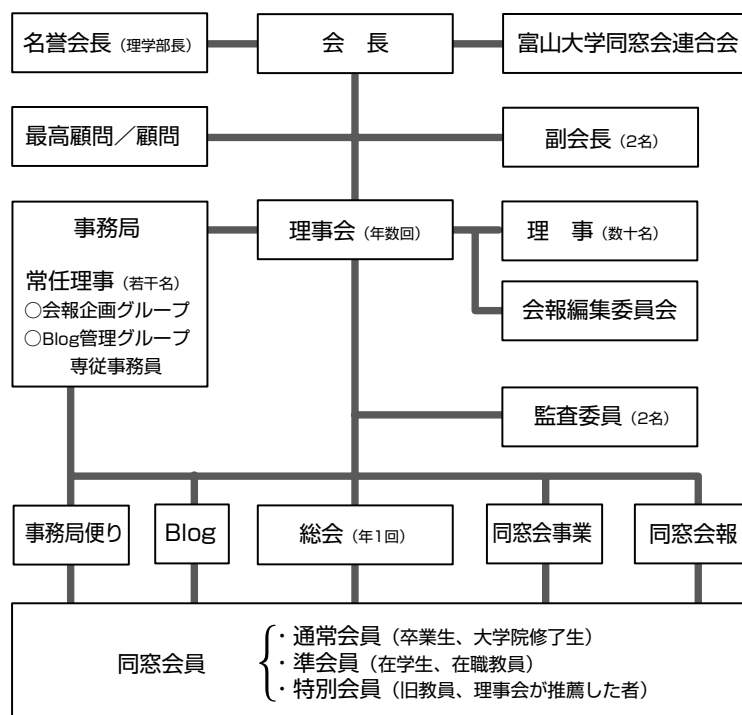
附則 1 この会則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第15条第1項の規定にかかわらず、大学院理工学研究部（理学）教員の準会員としての入会金は、平成18年4月1日現在の在職者に限り、1万円の入会金を納入するものとする。

## 富山大学理学部同窓会役員名簿 (2007年度)

|       |                  |                |                |  |
|-------|------------------|----------------|----------------|--|
| 名誉会長  | 平 井 美 朗 (理学部長)   |                |                |  |
| 会 長   | 平 田 卓 郎 (1 化学)   |                |                |  |
| 副 会 長 | 石 川 克 (1 数学)     | 西 野 俊 一 (21物理) |                |  |
| 常任理事  | 水 野 透 (17数学)     | 高 井 正 三 (21物理) | 水 島 俊 雄 (22物理) |  |
|       | 西 井 淳 (28化学)     | 内 山 実 (20生物)   | 蒲 池 浩 之 (37生物) |  |
| 理 事   | 関 場 鉄 也 (5 化学)   | 手 塚 昌 郷 (7 化学) | 吉 川 和 男 (7 物理) |  |
|       | 北 野 芳 則 (8 化学)   | 小 川 清 美 (8 化学) | 刑 部 陽 宅 (10生物) |  |
|       | 金 坂 績 (12化学)     | 北 野 孝 一 (12数学) | 常 川 省 三 (12物理) |  |
|       | 畠 山 豊 正 (12物理)   | 寺 田 龍 郎 (12生物) | 林 有 一 (13物理)   |  |
|       | 吉 岡 博 司 (13物理)   | 菅 谷 孝 (16数学)   | 村 橋 猛 (17物理)   |  |
|       | 清 水 建 次 (18物理)   | 林 美貴子 (18生物)   | 上 山 勉 (19化学)   |  |
|       | 辻 直 史 (22数学)     | 佐 伯 昌 明 (24化学) | 佐 藤 卓 (25生物)   |  |
|       | 岩 坪 美 兼 (26生物)   | 二 宮 努 (27数学)   | 菅 澤 剛 一 (30化学) |  |
|       | 金 井 博 之 (31地球)   | 松 田 恒 平 (33生物) | 塚 田 秀 一 (34地球) |  |
| 監査委員  | 川 田 邦 夫 (14物理)   | 松 山 政 夫 (20化学) |                |  |
| 最高顧問  | 小 黒 千 足 (元富山大学長) |                |                |  |

富山大学理学部同窓会組織図



## 編集後記

従来の理学部の同窓会報を、もっと充実した内容にしようという企画が了承されたのは昨年5月の理事会でした。ここに新しく名称を「The Basis」として、ようやく発行に漕ぎつきましたので、創刊号から数えて第26号をお届けします。本誌に快く寄稿下さいました先生方や同窓会員の皆様に、まずは感謝を申し上げます。会員の皆様には、会員の近況や同級会等の開催便り、学生時代の研究室での思い出、大学や後輩への提言など、今後とも本誌への投稿を期待しております。

本同窓会では、ホームページも活性化しようとBlogに変更し、独立したサーバーをレンタルして、ブログ・サイト「CH<sub>3</sub>NH<sub>2</sub>」(メチルアミン)を開設し、e-Mailアドレスの所有者にサービス開始を連絡したのは昨年12月22日で、件名は「理学部同窓会ブログ開設とその活性化を願って」でした。そこへ書き込んできたのは僅か2名、その他数十通は外国からの不審なコメントとトラックバックでした。半年待ちましたが、成果は未だに上がっていないようで、本会報にユーザIDとパスワード、使用方法を公開しました。

ところで、総務省の統計では、2006年3月時点でブログの登録者数が868万人、SNSの登録者が716万人となっていて、現在では1千万人以上の人がブログを楽しんでいる状況だと推定されますが、富山大学では人間発達科学部のホームページと理学部同窓会でブログが運用されているものの、利用者は殆ど皆無の状態です。

ブログに「管理者のつぶやき」を書き込める場所を作ってはみましたが、つぶやいていても始まらないようです。今までは一方通行だった同窓生への通知から、同窓生同士の通信が可能になったのです。昨年、Web2.0という言葉が氾濫し、40冊以上の書籍や解説本が出版されましたが、このWeb2.0の特徴の一つが「集合知の利用=Harnessing collectiveintelligence」であり、フリーの百科事典Wikipedia、Amazon.comにみるユーザ参加型Webサイトの台頭があります。

その最も身近にあるのがBlogや地域SNSです。この双方向コミュニケーション・ツールが、そして参加者の集合知の利用が、新しい価値を生み出していく時代に入ってきたのではないのでしょうか。同窓生各位の積極的な参加と、楽しく充実した記述による対話の活性化を待ちたいと思います。

今年10月6日(土)には、富山大学同窓会連合会の設立総会が予定されています。誰も言いませんが、最終的には独立法人化した富山大学が潤沢に使える資金を集めたいようです。その真意を確かめたい同窓生は、先ずそして必ず参加して欲しいと思います。

2007年7月  
同窓会常任理事 高井正三 (21物)

富山大学理学部同窓会報

## The Basis Vol.26 (理学部同窓会報通巻26号)

### 会誌編集委員会

水野 透(17数)、 内山 実(20生)、 高井正三(21物)

水島俊雄(22物)、 西井 淳(28化)、 蒲池浩之(37生)

富山大学理学部同窓会報

# The Basis

---

|        |   |                                                                                         |
|--------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 発      | 行 | 平成19年7月20日                                                                              |
| 編集・発行者 |   | 富山大学理学部同窓会<br>〒930-8555 富山県富山市五福3190<br>富山大学理学部内<br>電話 (076) 445-6143<br>振替口座 金沢0-16829 |
| 製      | 作 | 株式会社ニッポー 制作室<br>富山県富山市南央町3-31<br>電話 (076) 429-7800                                      |
| 印      | 刷 | 株式会社ニッポー                                                                                |



## 富山大学理学部

〒930-8555 富山市五福3190 TEL076-445-6143 FAX076-445-6142  
<http://www.science-alumni-u-toyama.org/>